

令和元年度

「家庭教育支援チーム」文部科学大臣表彰



表彰活動一覧

令和2年2月  
文部科学省

## はじめに

家庭教育は、すべての教育の出発点であり、子供の基本的な生活習慣や豊かな情操、自立心の育成、心身の調和のとれた発達を図る上で、重要な役割を担うものです。

一方で、核家族化やひとり親家庭の増加、地域のつながりの希薄化など、家庭を取り巻く環境の変化とともに、児童虐待や不登校など、子供の育ちをめぐる課題も懸念されており、保護者が安心して家庭教育を行うことができるよう、家庭教育支援の必要性・重要性は一層高まっています。

このため、文部科学省では、地域における子育て経験者や元教員など多様な人材による「家庭教育支援チーム」の組織化を推進するとともに、地域の実情に応じた家庭教育支援の取組を支援しています。

本冊子は、令和元年度「家庭教育支援チーム」の活動の推進に係る文部科学大臣表彰において、表彰された全国の「家庭教育支援チーム」28団体の活動概要を取りまとめたものです。

各チームにおける地域の課題解決に向けた取組や、効果的な支援のための連携、工夫などが盛り込まれた具体的な実践事例集となっています。

今後、広く全国の様々な地域において、家庭教育支援の取組を更に充実していくためのご参考として活用いただければ幸いです。

文部科学省総合教育政策局  
地域学習推進課家庭教育支援室

# 目次

No	都道府県名	市町村名	「家庭教育支援チーム」の名称	活動形態				頁
				保護者への 学びの場の提供	地域の 居場所づくり	訪問型 家庭教育支援	その他	
1	北海道	くしろし 釧路市	釧路市家庭教育支援チーム	★		★		1
2	青森県	あおもりし 青森市	青森市家庭教育サポーター連絡会	★			★	3
3	岩手県	しわくんやはばちょう 紫波郡矢巾町	特定非営利活動法人矢巾ゆりかご	★	★	★	★	5
4	宮城県	わたりくんわたりちょう 巨理郡巨理町	巨理町家庭教育支援チーム「ぶらんこ」	★				7
5	山形県	ひがしねし 東根市	特定非営利活動法人クリエイティブひがしね	★	★		★	9
6	福島県	きたかたし 喜多方市	喜多方市家庭教育支援チーム“もも”	★				11
7	茨城県	ばんどうし 坂東市	坂東市訪問型家庭教育支援チーム			★		13
8	栃木県	し さくら市	さくら市家庭教育支援チーム	★				15
9	群馬県	まえはしし 前橋市	特定非営利活動法人CCM 子育てサロン・サマンサ	★	★			17
10	埼玉県	しらおかし 白岡市	「町ぐるみん白岡」	★	★			19
11	千葉県	あわくんきよなんまち 安房郡鋸南町	鋸南町家庭教育支援チーム	★	★	★	★	21
12	東京都	おうめし 青梅市	特定非営利活動法人青梅こども未来	★	★			23
13	新潟県	かわざきし 柏崎市	よろんごの木	★	★	★	★	25
14	福井県	さかいし 坂井市	坂井市家庭教育支援チーム	★	★		★	27
15	岐阜県	げろし 下呂市	下呂市家庭教育支援チーム	★	★			29
16	静岡県	しまだし 島田市	島田市家庭教育サポートチーム	★				31
17	愛知県	いなざわし 稲沢市	稲沢市家庭教育支援チーム「稲沢子育てサポートネット」	★			★	33
18	京都府	きょうたんごし 京丹後市	家庭教育支援チーム「すこやか倶楽部おおみや」	★	★		★	35
19	大阪府	いずみおつし 泉大津市	泉大津市家庭教育支援チーム「スマイルサポートチーム」	★		★		37
20	奈良県	いにまし 生駒市	生駒市家庭教育支援チーム「たけのこ」	★	★			39
21	岡山県	かつたくんしやうおうちょう 勝田郡勝央町	勝央町家庭教育支援チーム「あすなる」			★		41
22	広島県	あきぐん ふちゅうちょう 安芸郡府中町	府中町家庭教育支援チーム「くすのき」	★	★		★	43
23	山口県	いわくにし 岩国市	平田の子どもたち元気応援チーム	★		★	★	45
24	徳島県	あなんし 阿南市	育みクラブ				★	47
25	愛媛県	かみうけなくんくまこうげんちょう 上浮穴郡久万高原町	久万高原 Happy サポート	★	★		★	49
26	大分県	さいきし 佐伯市	佐伯市子バング支援チーム	★			★	51
27	鹿児島県	おおしまくんちなちょう 大島郡知名町	知名町家庭教育支援チーム「ゆいゆい」	★	★		★	53
28	(政令指定都市)	さかいし 堺市	「みんない」地域づくり推進委員会	★	★			55

# 釧路市家庭教育支援チーム



釧路市家庭教育支援チームは、平成 25 年の結成以来、「全て」の家庭に対する家庭教育支援を目指しています。

ユニバーサルの視点による支援として、家庭教育講座の開催や生活習慣啓発資料の作成・配布を行っているほか、ターゲット的視点による支援として、電話相談対応や教育的課題を抱える家庭に対しての訪問型支援など、様々な支援活動を行っています。

組織体制では、家庭教育支援や子育て支援に関わる職員のほか、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの専門家がチームをつくり、関係機関と連携しながら就学前から就学後までの切れ目ない支援を行っています。

活動拠点を置く市町村

釧路市：人口 168,188 人（令和元年 12 月 1 日現在）

活動範囲

釧路市内全域

活動開始年月

平成 25 年 4 月

構成員

20 人（元教員 2 人、スクールソーシャルワーカー 2 人、  
スクールカウンセラー 1 人、社会福祉法人職員 2 人 など）

活動形態

保護者への学びの場の提供  
その他（

地域の居場所づくり  
）

訪問型家庭教育支援

活動対象

乳幼児  
中学生

小学生（低学年）  
高校生以上

小学生（中学年）

小学生（高学年）

の子供を持つ保護者に対する活動を実施

活動の目的・趣旨

家庭は教育の原点であり、全ての教育の出発点です。未来を担う釧路の子供たちが健やかに成長することができるよう、様々な家庭教育支援活動を通じて、家庭の教育力の向上に努めています。

## 主な活動内容

### 家庭教育講座「ほわっと」の開催

家庭における生活・学習習慣、子供との関わり方等について学びを深める機会として、各学校の単位PTA研修会や幼稚園・保育所の参観日等の機会を活用した、訪問型家庭教育講座「ほわっと」を実施しています。より多くの保護者等が参加できるように、子供の発達段階に応じた講座のテーマを設定するとともに、あらゆる機会を利用して、講座の案内や実施報告を周知しています。



【幼稚園保護者向け講座】



【親子の体力づくり】



【保護者交流】

### 生活習慣啓発資料の作成・配布

「早寝・早起き・朝ごはん運動」、「くしろっ子 共に育てる10か条」等、家庭における生活習慣定着を啓発するリーフレット等を作成し、家庭教育講座や市内一斉に開催される小学校の新入学児童保護者説明会等の機会を活用して配布しています。



### 訪問型アウトリーチによる直接支援

社会福祉法人と連携し、不登校等の教育的課題を抱える家庭への支援として、「ファースト・ステップ・プログラム」事業を実施しています。「釧路こども家庭支援センター」を拠点として、家庭訪問及び子供の通所支援、午前中を活用した活動支援、保護者への相談支援等を行っています。



【制作活動】



【イモ掘り体験】



【学習会】

## 活動の成果と今後の展望

- ・家庭教育講座の参加者が増加傾向にあり、「早寝・早起き・朝ごはん」の必要性や効果等の啓発が徐々に進んでいます。
- ・これまで家庭からの第一歩を踏み出すことができなかった児童生徒が本取組を通じて、協調性、社会性、忍耐力等が育まれ、生活リズムや不登校状況等が改善されるとともに、子供の成長を通して保護者も成長するなど、着実に家庭全体の支援における効果が現れています。
- ・北海道教育大学釧路校と連携し、学生のフィールド学習の場としても活用されており、将来の教員の人材育成の観点においても貢献しています。
- ・チーム設立から6年が経過し、今後も事業が持続し、より効果が発現されるよう日々改善を検討していますが、中学校での講座実績が低いことから、より一層の学校との連携や保護者のニーズに適合した取組の検討を続けていきます。

子育てを  
応援します

# 青森市家庭教育支援チーム



私たち青森市家庭教育支援チーム（青森市家庭教育サポーター連絡会）は、平成14年度から「青森市内で子育てをしている保護者の皆さんのお役に立ちたい！」という熱い思いを持ち続け、青森市教育委員会と協働で活動しています。平成23年度からは、講座の受講生だったメンバーを迎え、青森市教育委員会より家庭教育支援事業を受託し『青森市子育てサポートセンター（サポセン）』の運営をしています。

サポセン活動は、子育て講座（『きらきら塾』と発達障害に関する『うとう塾』等）の企画運営を通して、「学びの場」の提供と情報発信・相談、市内の小・中学校で行われる「家庭教育学級」の運営サポートを行っています。

## 活動拠点を置く市町村

青森市：人口 281,388 人（令和元年12月1日現在）

## 活動範囲

青森市内全域、小中学校区 など

## 活動開始月日

平成23年4月

## 構成員

10人（支援活動経験者4人、子育て中の保護者6人 など）

## 活動形態

- 保護者への学びの場の提供
- その他（家庭教育の情報提供・発達障害への理解と情報提供・相談業務・家庭教育学級のサポート・『親楽プログラム』の講師）

## 活動対象

- 小学生（低・中・高学年）
- 中学生
- 発達障害児(者)の子どもを持つ保護者

## 活動の目的・趣旨

- 学びをとおして、保護者の皆さんと共に家庭教育の充実を図ることを目的とします。
- 知ることは、変わること！正しい情報は力になり、明るい子育てに繋がることを目指します。
- 「子育ては自分育て」を合言葉に、子どもの成長段階に応じた内容を学び、保護者と私たち地域の大人が、未来を切りひらく子どもたちのためにできることを見つめ直す「学びの場」を提供します。
- 青森市内の小・中学校PTAが実施する家庭教育学級の運営をサポートすることをおして、家庭教育学級の意義と役割が子どもの健やかな成長の一助となることを、運営するPTA役員等に周知します。

## 主な活動内容

- ①家庭教育(しつけ・生活習慣・食育など、保護者が行う家庭内での教育的行為)や発達障害への理解と対応などの学習機会の提供
- ②通信やブログでの情報提供
- ③相談業務
- ④市内の小・中学校での『家庭教育学級』の運営サポートや講師紹介など

## 学習内容の事例紹介

- ・インターネットに潜む危険性
- ・命の大切さを学ぶ教室
- ・小学生と保護者のための思春期健康教室
- ・発達段階に応じた子どもへの接し方
- ・家庭でも実践しよう!あおもり型給食!
- ・子育てハッピーマネー講座
- ・ふれあい餅つき交流会

〈家庭教育学級実施報告書より一部抜粋〉



## 活動の成果と今後の展望

家庭教育の充実を図ることを目的に、参加者のニーズを取り入れながら講座内容の見直しを行うことで年々需要が高まっています。また、学校関係者やPTAを対象とした家庭教育学級の説明会を開催し、講座実施校の事例紹介や食育・いのちのお話出前講座、防災講座等の公開プレゼンテーションを実施することで、活動が小・中学校を中心に地域全体へ広がってきています。しかし、講座の運営継続には課題があり、共働きの保護者の増加により参加者の集客・スタッフの確保に苦勞する現状があります。今後は開催日時や講座内容の検討を重ねるとともに、活動が充実すれば活動時間が長くなるというスタッフの働き方の観点からも検討を重ね、活動を継続・発展できるような運営体制の構築が必要となります。





# 矢巾ゆりかご



## チームの紹介

町の保育ママ養成講座に参加した有志が中心となり活動を展開。妊娠期から乳児期にかけての相談会や、子育て世代が交流することができる場としての居場所づくり、研修を受けた地域の子育て経験者がボランティアとして保護者の思いを傾聴したり一緒に家事をしたりするなど、保護者に寄り添った丁寧な家庭訪問支援等を行っています。

子育てに関するさまざまな活動をとおして、切れ目のない子育てしやすい環境づくりの寄与と地域貢献を目指しています。

### 活動拠点を置く市町村

矢巾町：人口 27,377 人（令和 2 年 1 月 1 日現在）

### 活動範囲

矢巾町全域、近隣市町など

### 活動開始年月

平成 14 年 1 月

### 構成員

27 人

### 活動形態

保護者への学びの場の提供      地域の居場所づくり      訪問型家庭教育支援  
その他（ 東日本大震災からの復興応援 ）

### 活動対象

乳幼児      小学生      子育て中の保護者 等

### 沿革

- |             |   |
|-------------|---|
| 平成 14 年 1 月 | 矢巾ゆりかご会 設立<br>矢巾町の保育ママ養成講座に参加していた有志が中心となって設立。当時は、大きな市町村でファミリーサポートセンターの設置が盛んな頃で、矢巾町は人口規模が小さかったものの補助金の援助があり、核家族化が進む中、子どもを預かる保育のサポートが必要とされていたため設立しました。 |
| 平成 16 年 4 月 | 特定非営利活動法人矢巾ゆりかご設立 放課後児童が利用する「児童館」の業務を受託   |
| 平成 18 年 4 月 | 「矢巾東児童館」の指定管理受託スタート   |
| 平成 20 年 7 月 | 地域子育て支援拠点事業「さくらんぼ広場」が開設、運営スタート  |
| 平成 21 年 7 月 | 放課後児童支援の「やはば東こどもの家」が開設、運営スタート   |
| 平成 23 年 7 月 | 東日本大震災の復興応援として、手づくりの布えほんの制作活動がスタート  |
| 平成 26 年 4 月 | ちびっこ保育、布モコくらぶ、受託事業（矢巾東児童館・さくらんぼ広場・やはば東こどもの家）実施  |
| 平成 27 年 8 月 | 家庭訪問型子育て支援ボランティア「ホームスタート」を開始  |
| 平成 28 年 4 月 | 矢巾町活動交流センター「やはぱーく」3 階の「子育て世代活動支援センターどんぐりっこ」の運營業務がスタート   |
| 平成 29 年 3 月 | やはば東こどもの家 移転開設  |
| 平成 30 年 4 月 | 放課後子ども教室「矢巾東キッズクラブ」開設、運営スタート  |
| 令和 1 年 6 月  | 産前産後サポート教室事業開設、運営スタート   |

## 主な活動内容

### 安心して子どもを産み育てることのできる環境づくり

妊婦からの子育て支援や児童の健全育成を目指して、地域に根ざした子育て支援を展開しています。指定管理施設「子育て世代活動支援センターどんぐりっこ」「矢巾東児童館」を拠点として活動し、いろいろな体験をすることで自分らしい元気な時間が過ごせるように応援しています。

未就学までの親子を対象に、妊婦から産後の母親支援で「産前産後サポート教室事業」、地域子育て支援拠点事業「さくらんぼ広場」、家庭訪問型子育て支援「ホームスタート」、復興支援活動として布えほんづくりの「布モコくらぶ」を、地域の助産師やボランティアの協力を得て開催しています。

児童の健全育成として、「矢巾東児童館」「矢巾東キッズクラブ」の管理運営や、インターンシップの高校生を受け入れて次世代育成に取り組んでいます。放課後を利用した行事では、地域に住む人との関わりや自分の世界を広げる活動をととした豊かな時間を目指しています。



### ～ 手づくり布えほん製作・配布(復興応援活動) ～

平成23年度から東日本大震災津波の被災地の親子が立ち寄る場所に、心和むひとときをすごしてもらえたらという思いで、布えほんを作って届ける活動しています。指先遊びが楽しめる温もりあふれる布えほんをボランティアの協力で製作しています。

### ～ 家庭訪問型子育て支援 ホームスタート ～

「外出しづらい」「頼れる人が身近にいない」...そんな子育て家庭をボランティアのホームビジターが訪問し、親子と一緒に過ごします。自分を応援してくれる地域の人に出会うことで孤立化を防ぎ、子育て中の親を支援します。



## 活動の成果と今後の展望



事業を通じて、参加者は、家庭では体験しにくいことを経験でき、新しい発見をしたり視野を広げたりするとともに、楽しい交流を通じて自然に仲間づくりができ、充実感をもつことができています。

また、立地条件の良い矢幅駅前活動交流センターで事業を展開することにより、多くの子育て世代の方にご利用いただき、交流が広がっています。さらに、放課後子ども教室事業では、地元の講師を多く招くことで地域とのつながりも生まれており、将来的には町内各小学校児童館との連携も視野に入れた活動を行っていきたいと考えています。

# 亶理町家庭教育支援チーム『ぶらんこ』



活動拠点を置く市町村、活動範囲  
宮城県亶理郡亶理町：人口 33,558 人  
活動開始年月 平成 22 年 4 月

構成員 26 人（主任児童委員、保健師、  
子育てサポーター、保育士、栄養士  
行政職員 など）  
活動形態 保護者への学びの場の提供

活動対象 主に小学生とその保護者  
亶理町の特産品 いちご、りんご、はらこめし



亶理町観光 PR キャラクター『わたりん』

## 活動の目的・趣旨

平成22年に町で実施した小学生の保護者に対するアンケートで、朝食をとらない、虫歯が多い、起床就寝時間が遅い子どもが多いとの結果から、生活習慣の乱れを改善すべく「朝ごはん」をテーマにした啓発活動「家庭教育ワンポイントアドバイス」を開始しました。親しみを持ってもらうためと親の背中を押したり、行き過ぎたときは引き寄せたりという意味を込め、チーム名を『ぶらんこ』と命名し、「早ね早おき朝ごはん」をベースにした啓発活動をおこなうようになりました。現在では、地域や学校と連携をはかり、ワンチームで町内全ての小学校において、保護者、児童への啓発をおこなっています。



## 活動の成果と今後の展望

親子で楽しく「食育」を考える機会をつくることで親子関係に深い信頼関係を生み、豊かな人間形成に資すると考えているため、今後も工夫を凝らしながら保護者、児童と関わり続けたいと思います。

## 主な活動内容

手作りのめくり絵しばいとパンフレットを活用し、小学校の新入学説明会や授業参観、PTA行事等で、親子で楽しく「食育」を考えるきっかけをつかめるようなプログラムを作り活動をしています。



お問い合わせ：亶理町教育委員会生涯学習課 ☎0223-34-0510

✉syogai1@town.watari.miyagi.jp

特定非営利活動法人

希望とかがやきのひがしねを創造する

# クリエイトひがしね

所在地：山形県東根市中央一丁目 5-1

## NPO 法人クリエイトひがしねとは？（平成 16 年法人格取得）

私たちは子育て支援活動を通じた社会貢献を行い、地域社会に必要とされる団体としての存在価値を高めるとともに、希望と輝きのあるまち「ひがしね」を創ります。

### 「未来をクリエイト」

遊びを通して子どもと親に寄り添い、未来の担い手となる人材を育成する。

### 「地域をクリエイト」

多世代間交流を通して、文化の継承・健康・生きがいづくりをすすめ、魅力ある地域を創造する。

### 「輝きをクリエイト」

大人も子どもも一人ひとりが共に輝きながら育ちあい、生きていける社会をめざす。

## 活動拠点を置く市町村

東根市：人口 48,012 人（令和元年 12 月 1 日現在）

## 活動範囲

東根市内全域

## 活動開始年月

平成 17 年 4 月

## 構成員

22 人（保育士・栄養士等 12 人、子育て経験者 7 人、元教員 3 人）

## 活動形態

- 保護者への学びの場の提供
- 地域の居場所づくり
- 訪問型家庭教育支援
- その他（地域（団体・個人）との連携・世代間交流の場づくり）

## 活動対象

- 乳幼児
  - 小学生（低学年）
  - 小学生（中学年）
  - 小学生（高学年）
  - 中学生
  - 高校生以上
- の子供を持つ保護者に対する活動を実施

## 活動の目的・趣旨

私たちは、子どもにとっての最善の利益を追求するために、子ども自らが遊びを通して、自主性や創造性、社会性などを育む「遊育」と、地域ぐるみで未来を担う子どもを共に育てる「共育」を子育て支援のテーマに掲げ、「さくらんぼタントクルセンター」と「ひがしねあそびあ rounds」の運営を核とし、親の悩みや不安に寄り添った講座など、幅広く、きめ細やかな家庭教育支援の取り組みを行っています。また、「米づくり・里山散策」等の実践により、核家族の親子が地域住民と関わり合う機会を創出し、多世代間が交流する中で、暮らしの知恵の継承や地域力の向上をめざしています。

## 主な活動内容

## 親も子ども地域も共に育ち合う

### ☆☆☆☆ 親育ち・子育ての支援 ☆☆☆☆

#### 【赤ちゃんサロン・ひろばの運営】

🌸🌸🌸🌸 赤ちゃんサロン(1才児～未就学児対象)

ほいほい、あーんよ、いうんあ  
動きが楽しいね、こいあお  
でさーいっすりおやすみ！



●事前申し込みは必要ありません

●参加費は無料です

●月に1回テーマを決めてあそびやべりするテーマトーク(園のはなし、離乳食など)をしています

●心強い遊びや絵本の読み聞かせをしています

●赤ちゃん・たっち・土曜日サロンは  
委託店、赤ちゃんサロンは教養館5室  
(タントクルセンター2階)で行っています

🌸🌸🌸🌸 たっちサロン(7～12ヶ月児対象)

子どもの成長を喜び  
あまえる仲間がいっぱい  
いるよ！



🌸🌸🌸🌸 赤ちゃんサロン(0～6ヶ月児対象)

向しくいのあちゃん  
ってどんな感じかな？



子育てサロン タイムスケジュール	
10:00～	受付 身体測定 (赤ちゃんサロンは月曜日に1回)
11:20～	ふれあい交流 ふれあい遊び 絵本の読み聞かせ
11:40	終了

🌸🌸🌸🌸 土曜日サロン(0～2才児対象)

あそぶあそび  
/ひいてつなをき  
してね！



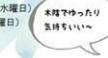
🌸🌸🌸🌸 移動子育てサロン「おひさま」(0才～未就学児対象)

地域に根ざした子育て支援をめざし、東郷市内の公民館に出向いて移動子育てサロンを開催しています。親子のペースに合わせて、室内でも外でもゆったりと遊び過ごせる交流の場です。

～開催場所～

神町公民館(第1、3水曜日)

大宮公民館(第4水曜日)



木曜ちやったり  
気持ちいい！



#### 屋外のアソビひろば



### ☆☆☆☆ 遊び場づくりは地域づくり ☆☆☆☆

#### 【タントクルセンター】子どもの時間・空間・仲間を創出



#### 【あそびあランド】



遊びが生まれる瞬間  
その子の心が動いた時  
心の根っこが育ちます  
それが、自ら遊び育つ  
「遊育」です。



### ☆☆☆☆ 地域との連携 ☆☆☆☆

#### 【遊びを通じた世代間交流】



#### 【伝承文化の継承活動】

##### 笹巻き作り↓



##### しめ縄づくり↑

#### 【子どもと一緒に農作業】



##### ←あそびあ田植え

##### 畑づくり→

### ☆☆☆ 地域に出向いた活動展開 ☆☆☆

#### 【遊びの出前】

地域の中に遊び場がある

子ども・大人・地域が

つながり、ひろがり

元気なまちになる！

#### 【里山 de あそびあ】

地域の人々とのつながりが深まり、気づき・発見・

感動・共に育ち合える場



## 活動の成果と今後の展望

私たちは、家庭教育における今日的課題を踏まえ、地域の実情や課題解決に応じた多様な事業を展開してきました。

親の不安や悩みに寄り添った支援を行うとともに、親と子が地域住民と関わり合う機会を創出することで、互いにつながりを持てるような仕組みをつくってきました。そして、地域ぐるみで子育てを応援する風土を醸成し、地域とNPO、行政が協働したまちづくりを目指してきました。

このような取り組みを継続し、親への支援と子どもの育ちを中心にした共助の地域づくり、まちづくりに貢献していきます。

# 喜多方市家庭教育支援チーム

## “もも”

### ●チームの紹介●

保護者同士や保護者と会員の対話を目的にした事業や「子育て何でも相談」事業等、様々な家庭教育講座を定期的に託児付きで開催しています。

「無理をしないで地道に末永く」をモットーに、行政や関係団体と連携しながら、助けが必要な保護者には、いつでも「もものおばちゃんがいる。」と思ってもらえるような活動を目指しています。

#### 活動拠点を置く市町村

喜多方市：人口 46,453人（令和元年12月1日現在）

#### 活動範囲

喜多方市内全域

#### 活動開始年月

平成22年4月

#### 構成員

9人（人権擁護員1人、元民生委員3人、小学校PTA2人、子育てサポーター2人、公民館職員1名）

#### 活動形態

保護者への学びの場の提供

地域の居場所づくり

訪問型家庭教育支援

その他（

）

#### 活動対象

乳幼児

小学生（低学年）

小学生（中学年）

小学生（高学年）

中学生

高校生以上

の子供を持つ保護者に対する活動を実施

#### 活動の目的・趣旨



活動を通じて、子育てに対する不安や悩みを解消し、保護者だけでなく地域全体で子育てをする環境づくりに努めています。

#### 主な活動内容



- ・講座の開催・・・子育て中の保護者を対象にした子育て学習会を年4回無料で開催しています。学習時、託児も無料で行っています。（食育講座、救命講習会、ミニ運動会等）
- ・ももクラブの開催・・・防災食の試食等、防災に関するお茶会を、和気あいあいで開催しています。保護者同士、子ども同士、保護者と“もも”会員の交流も目的としています。
- ・子育て相談・・・保護者の悩みを一緒に考え、心を軽くする手伝いや電話相談も行っています。（託児付きの相談も有り）

- ・定例会……月1回、会員が集まり、講座の内容の提案、情報交換・共有しながら、次回の講座について話し合いを行っています。
- ・その他の事業……就学時健診時の保護者が集まる機会等を利用して、会員が講師となり、家庭教育講座を行っています。



食育講座  
生きることは食べること



ミニ運動会  
笑って動いてよーいドン



紙芝居「ひとしずくの会」  
三太郎がやってきた



救命救急講習会  
AEDの使い方



手作りおもちゃであそぼう  
風船編



料理教室  
野菜たっぷり栄養満点

その他に、「親業訓練インストラクター」「女性特有の病気について」「かすかな光へ上映会」など多数行っています。

### 活動の成果と今後の展望



2010年4月から、3名のメンバーで、会費3,000円を出し合って活動を始めましたが、2011年3月11日に東日本大震災、東京電力の原発事故が発生しました。

僅かなお金しかありませんでしたが、「避難してこられた保護者の方との交流の場を作ろう」と考え、私達からのメッセージと宛名を書いたハガキ入りの封筒を、教育委員会の協力の下、約70名の保護者に渡すことができました。そのうち30名近くから返信があり、それから定期的に「お茶飲み会」を開き、生活情報や安心の場を提供して参加された保護者の皆さんに喜んでもらいました。

今までの経験は、この10年間、私達の活動の原点となってきましたが、数年間継続的に講座を受講された保護者さんから、先日、「困った時や話をしたい時は、いつもそばにいるからね。」という、「もも」さんからのメッセージが心強かったし、講座の話もふっと思い出す時があります」という言葉をいただきました。これを「継続こそその成果」と捉え、さらなる継続と充実を図って、総会、例会を重ねて参ります。

小さな家庭教育支援団体ではありますが、協力要請が他からあった時には、いつでも動ける存在であり、保護者が助けを求めた時には、いつでも対応できる存在でありたいと考えています。

# 坂東市訪問型家庭教育支援チーム

平成 28 年度に発足した本チームは、教育現場のOBや民生委員、更生保護司など経験豊かな支援員により構成されています。

発足以降、継続して活動されている支援員が多く、地道な家庭訪問を通して粘り強く保護者や児童生徒に関わり続けています。使命感に燃える地域の力として子供たちの健やかな成長に携わっています。



坂東市

スカイツリーからわずか40Km!  
最寄りのIC:圏央道坂東IC

## 活動拠点を置く市町村

坂東市：人口 53,920 人（令和元年 12 月 1 日現在）

平将門公ゆかりの地、農業が盛んな地域（夏ネギ、レタス、さしま茶等が有名です）

幼児教育施設 13 園（公立・私立計）、小学校 13 校、中学校 4 校、県立高校 2 校

## 活動範囲

坂東市内全域

## 活動開始年月

平成 28 年 4 月

## 構成員

10 名（元教員 5 名、民生委員 2 名、元団体職員 2 名、更生保護女性会 1 名）  
2 名で 1 組となって、4 ～ 5 家庭を担当

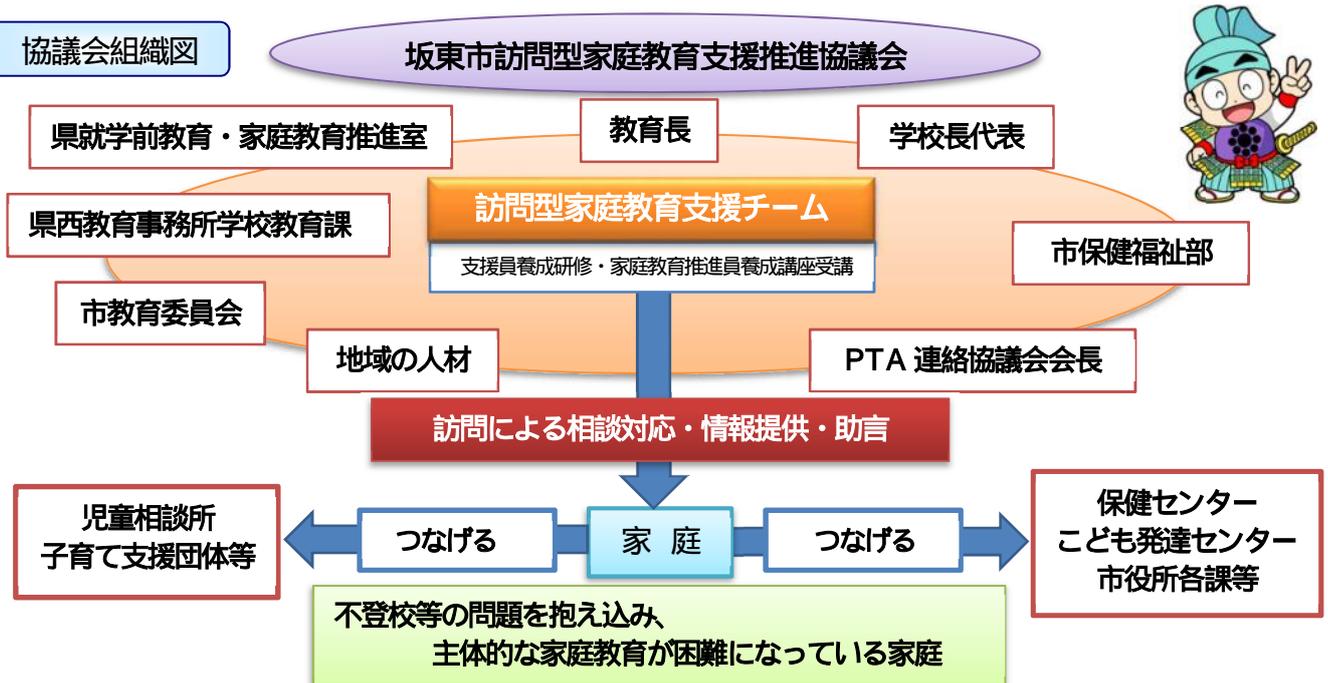
## 活動形態

- 保護者への学びの場の提供
- その他（ ）
- 地域の居場所づくり
- 訪問型家庭教育支援

## 活動対象

- 乳幼児
- 小学生（低学年）
- 小学生（中学年）
- 小学生（高学年）
- 中学生
- 高校生以上 18 歳未満の子供を持つ保護者に対する活動を実施

## 協議会組織図



## 活動の目的・趣旨

### <社会的背景から>

家族形態の変化や、地域社会のつながりの希薄化を背景とした子育てに関する不安や悩み、孤立しがちな家庭の増加

不登校、児童虐待、経済的困難等、主体的な家庭教育が困難になっている家庭の増加

### <対応として>

**地域の人材、保健福祉部等と協働した、訪問型支援等の幅広い支援を行う家庭教育支援体制を構築し、家庭や子供を地域で支える取組を推進強化する。**

具体的には、子供の不登校や引きこもり問題等を抱えるなどして主体的な家庭教育が困難となっている家庭へ支援員が訪問を行い、保護者の悩みや不安に寄り添いながら家庭教育力の向上を図り、養育環境の改善や子供の教育現場への復帰を目指します。また、訪問先で得た情報や保護者の要望等については、保健福祉部や教育委員会が連携・協力を図りながら協議し、よりよい支援を行えるよう努めます。

## 主な活動内容

- ・年6回の協議会を実施（全体会 = 2回、支援員と事務局のみの会 = 4回）  
（協議会メンバー等は組織図参照）
- ・協議会には大学の教授等を招き、専門的視点からのアドバイスを受ける。
- ・支援員としての資質の向上を図るための積極的な研修への参加。  
（県主催訪問型家庭教育支援員養成講座、家庭教育推進員養成講座等）
- ・学校現場等とケース会議を行ったうえで、家庭とのファーストコンタクトを実施。家庭訪問時は必要に応じて福祉課ケースワーカーや社会福祉士の同行を要請、他部局の支援にもつなげる。
- ・対象家庭に対しては、訪問や電話、SNS、手紙などあらゆる手段を使って、外部にも心配している人がいることを伝え続けると共に、孤立化させないよう見守り体制を強化する。
- ・学校現場の要請により、初期段階の不登校の際に保護者や児童生徒と面談し、早期解決を図る。



協議会の様子

## 活動の成果と今後の展望

訪問型家庭教育支援事業は長期化するケースに携わることも多く、短期間で結果が現れないのが現状です。本市では、通常の支援に加え、義務教育修了後の18歳未満の子をもつ対象家庭への経過観察を行い、いつでも相談に乗れるような体制を整えております。さらに本市では新たに「教育福祉連携研究地域運営協議会」や「子ども総合支援会議」を立ち上げ、複合化するさまざまな要因をもつ家庭や子供たちへの隙間のない支援を届けることができるよう、学校現場と行政に加え、民間事業者等が力を合わせて組織的な対応ができるよう検討を進めているところです。地域の人材と行政を含めた関係機関の連携により、今後も未来を担う子供たちが笑顔で学び、生活できる環境を目指していきます。

<お問い合わせ> 茨城県坂東市教育委員会 生涯学習課

電話 0297-21-2204

Mail [gakusyuu@city.bando.ibaraki.jp](mailto:gakusyuu@city.bando.ibaraki.jp)



坂東市マスコットキャラクター「将門くん」

## さくら市家庭教育支援チーム

家庭の教育力向上を図るために、教育・福祉分野の関係者から構成した「親育ち・子育て支援協議会」の事業として、平成19年4月に設置した。協議会等で出された家庭教育支援の方針を受け、子育て情報の提供や学習機会のコーディネートなど、必要とする支援活動に取り組んでいる。

活動拠点を置く市町村 さくら市：人口 44,750人（令和元年12月1日現在）

活動範囲 さくら市内全域 活動開始年月 平成19年4月

構成員 18人（家庭教育オピニオンリーダー、地域教育コーディネーター、主任児童委員、民生委員、家庭教育学級生、社会教育主事、社会教育指導員など）

### 活動形態

保護者への学びの場の提供 地域の居場所づくり 訪問型家庭教育支援  
その他（ ）

### 活動対象

乳幼児 小学生（低学年） 小学生（中学年） 小学生（高学年）  
中学生 高校生以上 の子供を持つ保護者に対する活動を実施

### 活動の目的・趣旨

#### 趣旨

教育・福祉・子育てなど、様々な分野で活動しているメンバーで構成し、それぞれの得意分野や強みを生かし、地域に根差した活動を行う。また、行政だけでは手の回らない部分を、できる範囲でできる時間に活動する。

#### 目的

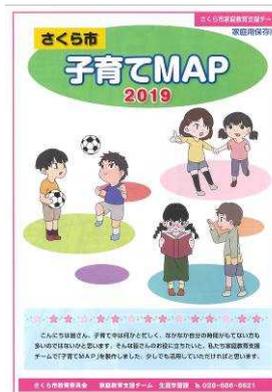
子育て中の保護者が必要としている情報や体験活動の場の提供、保護者同士の交流の機会を提供することで、家庭教育の向上を図る。

## 主な活動内容

### ○情報誌「子育てMAP」の作成・発行

子育て中で忙しくなかなか自分の時間がもてない保護者を対象に、医療機関や相談機関も含めた市内中心の情報を提供している。保存版として0歳から1歳の子どもをもつ保護者に配付するほか、市内の施設や医療機関等に配付している。

また、出生時や転入時にも受け取れるように、市の窓口でも配付している。



### ○講座、イベントの開催

#### 家族フェスタの開催

毎年8月に市教委生涯学習課、氏家公民館と共に「家族のふれあい」をテーマにしたイベントを家庭教育オピニオンリーダーなどの市民ボランティアとの協働で実施。親子で楽しめる様々な体験活動を提供している。毎年8月第1週目の日曜日は、「家族みんなで公民館へ」を合言葉に継続して実施している。

#### 地域元気プログラムの実施

県の地域課題解決型学習プログラム指導者養成研修を受講したチーム員5名がファシリテーターとなり、子育てを通して地域のつながりづくりをねらいとしたプログラムを実施。学校運営協議会や公民館運営協議会などからの依頼に応じてプログラムを検討し、当日の運営を行っている。



### ○託児の実施

下記事業において、参加者が安心して相談会や学習会に参加できるように、託児を実施している。

ひだまりふぁんの会（子どもの発達や発育で心配や悩みを抱えている保護者の相談会）

乳幼児学級「エンゼル講座」（乳幼児をもつ親子を対象とした、友達づくりや育児の学習会）

親子応援講座（各小学校会場で行う就学時健康診断の際に家庭教育オピニオンリーダーが実施している学習会・講座）



## 活動の成果と今後の展望

### 【成果】

様々な家庭教育支援団体との連携を図り、協働でイベントなどを実施することで、地域全体での子育ての意識を高めることができています。

チーム員と子育て中の方とのつながりができ、子育て中の保護者の生の声を、情報誌やイベントに生かすことができた。

### 【課題と今後の展望】

学校との連携を検討しているが、専門性や活動の場などで課題が多い。学校運営協議会委員となっているチーム員もいるので、今後は学校との連携やアウトリーチ型支援など活動の幅を広げていきたい。地域の実態や家庭の状況を正確に把握しているとは言えない。地域では何を課題としているのか、何を必要としているかを把握し、支援チームとして無理なくできる支援を行っていきたい。



## 主な活動内容



- ◇ 毎月第1, 第3木曜日, 10時から正午まで, 前橋市社会福祉総合会館内でおこなっています。
- ◇ ママの横には, サポーターが付いて話を聴き思いを受け止めています。
- ◇ 薫り高い紅茶を素敵なカップで提供しています。



## 参加したママたちの声

- ・〇歳の長男にキツク当たってしまう
- ・子育てに自信がない
- ・家事も育児もきちんとしないといけないと思うと苦しい
- ・新築して周りに知り合いがない, 買い物以外は外出しない
- ・長男が, 自己主張が強くて困ってる
- ・娘は, 勉強は楽しいと言ってる, 運動能力ももう少しあって欲しい
- ・上の子は積極的だが, 下の子は, 消極的で困る
- ・上の子が, 下の子にやきもちをやく
- ・上の子が赤ちゃん返りをしてる



## ペアレント・トレーニング

2018年より, 「ペアレント・トレーニング」をベースとした講座をおこなっています。講座は, グループワークですが, カウンセリングマインドをもったサポーターが, 母親と1対1でペアを組みます。このようにすることで, 個別サポートの要素も取り入れています。講座の後は, 参加者全員で美味しい紅茶を囲んでの歓談を楽しみます。

## ペア・トレ後のママ

- ・子育てが楽しくなった
- ・子どもの成長を感じることができる
- ・子どもがかわいいと思える
- ・自分のイライラが減った
- ・あまり怒らなくなった
- ・夫は協力的になった
- ・子どもが泣かなくなった
- ・妹と喧嘩をしなくなった
- ・口ごたえが減った



## 活動の成果と今後の展望

### 成果

- ◇ 不安感や閉塞感などのストレスの軽減につながったという声が, 寄せられています。
- ◇ 子育て中の母親の仲間・友達づくりの場と, 学びの場となっています。

### 展望

- ママの自己肯定感をサポートすることで, 子どもの自尊心を育てることができると考えています。
- 未来を担う子どもの自尊心の育みは, 次世代の豊かな地域社会の実現につながっていくと考えます。



## 主な活動内容

### 《我が家の約束チェックシートの配布・我が家の約束交流会》

市内の保育園、幼稚園、小学校等を通じて、各家庭に「町ぐるみん白岡」我が家の約束チェックシートを配布しています。チェックシートは全18項目で、家庭で実践してほしい内容、日々の生活で大切な内容が記載されており、各家庭での子育ての振り返りに活用していただいています。

また、小学生の保護者等を対象に、チェックシートを活用した「我が家の約束交流会」を開催しています。



### 《みんなあつまれ！！わいわいコンサート♪》

市内在住の音楽家が中心となり、乳幼児向けのコンサートを開催しています。家族で本格的な音楽会を体験する機会を提供し、子供の豊かな心と感性を育むことを目的として実施しています。

### 《ひこべえの森冬のつとめ》

中学生、高校生と地域の方々がいっしょになって、市内の雑木林において、ボランティア活動や自然体験活動を実施しています。この活動を通じて、異年齢交流が図れるとともに、中学生、高校生の力を地域に還元することもできます。



### 《学校応援団交流会》

小・中学校の学校応援団やPTA、教職員、地域の方々が集まり、それぞれの立場から子供たちへの支援について意見交換を実施します。この活動を通じて、地域全体での子育て意識の向上を図っています。

## 活動の成果と今後の展望

- 学校、家庭、地域のつながりを強化することができました。
  - 子育て関係者同士が意見交換できる場を設けたことで、地域全体での子育て意識を高めることができました。
  - 子供たちに貴重な体験活動を経験させることができました。
- 
- 今後は、安定的に活動メンバーを確保していくことが重要であり、積極的に「町ぐるみん白岡」の活動をPRし、認知度の向上を目指します。
  - 「町ぐるみん白岡」の活動は、幅広い地域学校協働活動にあたると思っています。今後は、コミュニティ・スクールとの連携・協力を検討し、活動の幅を広げていきたいと思っています。

## 鋸南町家庭教育支援チーム

子を持つ親同士の交流の場、親子の学びの場、家庭教育相談窓口の提供を目的として、公民館に設置し、地域ぐるみで継続的に様々な家庭教育支援事業の運営を行っているチームです。

また、保・幼・小・中学校と連携し、それぞれのニーズに合った子育て講座や家庭教育支援学級も開催しています。

活動拠点を置く市町村 千葉県安房郡鋸南町：人口 7,687人（令和元年12月1日現在）

活動範囲 鋸南町全域

活動開始年月 平成21年4月

構成員 13人（子育てサポーター3人、元教員3人、こども育成会1人  
青少年相談員2人、教員・保育士3人、臨床心理士1人）

### 活動形態

保護者への学びの場の提供 地域の居場所づくり 訪問型家庭教育支援  
その他（保幼小中への家庭教育支援事業）

### 活動対象

乳幼児 小学生（低学年） 小学生（中学年） 小学生（高学年）  
中学生 高校生以上 の子供を持つ保護者に対する活動を実施

### 活動の目的・趣旨

町内の保幼小中学校と連携し、家庭の教育力向上を目指した家庭教育学級（子育て講座）の開催、公民館の教室を改修し、親子が集える空間「子育て広場」を開設する。また、公民館に臨床心理士（カウンセラー）を配置し、子育てや家庭に関する悩み相談を行う家庭教育相談「オアシス」の実施、支援や配慮が必要な家庭には、教育委員会・学校等と連携し、必要な支援を実施するなど、家庭教育支援に関して町全体で取り組んでいく。

その活動の中心的な場所となる「子育て広場」を通して、町内に限らず近隣市からも多くの子育て世代の方々が来館し、交流を図ることにより、仲間づくりを進めていく。このような活動を通し、子育て広場での活動に参加された方たちが中心となり、自主的にイベントを企画・運営したり、小学校で開催している「放課後子ども教室」等にもスタッフとして参加したりしている。今後、町の発展のため活動を広め、学校・家庭・地域連携の推進にあたっていきたい。

## 主な活動内容

### 【組織・運営】

< 地域の実情に応じた組織で活動 >

支援員のほか、元保育士、元幼稚園教諭の方々がボランティアとして積極的に参加している。定例会や毎週イベント時の打ち合わせを行い、関係団体の協力も得て事業を進めている。

< 効果的かつ持続可能な運営 >

毎週木曜日に開催するイベントは定着し、近隣の市からの参加者も徐々に増えてきている。

### 【活動】

< 学校や保育所、保護者、地域住民等の意見や状況等を反映した取組 >

保幼小中と連携し、それぞれのニーズに合わせた子育て講座、家庭教育学級を毎年実施し（年間8回以上）家庭教育力の向上、子育ての支援に努めている。

< 学校等や地域の子育て関係団体、保護者、企業など地域全体が参画するための創意工夫 >

子育て広場において毎週木曜日にイベントを実施し、様々な団体から協力を得ている。

< 当該地域における家庭教育支援活動の推進 >

少子化、過疎化が進んでいる地域において、親子同士が安心して過ごせる場（子育て広場）は、必要性が高く、親同士の交流だけでなく親と家庭教育支援員との関係づくりにもなっており、常に子育てや家庭に関する相談ができる体制となっている。

## 活動の成果と今後の展望

子育て広場におけるイベントに参加しているスタッフ同士の交流が深まり、その方たちが小学校の「放課後子ども教室」等にも積極的に参加するようになってきている。

日常利用している地域の方が自主的にイベントを企画・運営を行うなど活発な取組みが展開されてきている。

○親子同士が安心して過ごせる場（子育て広場）において、親同士の交流だけでなく、さらに広く家庭教育支援員との関係づくり等、子育てや家庭に関する相談ができる体制をとっていきたい。

## 《鋸南町家庭教育支援チーム主な活動の様子》



昼食の様子(交流)



乳幼児の救急法



子育てアドバイス(保健福祉課)



子供服交換会(交流)



子育て講座(鋸南中)



パクパクアドバイス(食育)

# 特定非営利活動法人 青梅こども未来



## チームの 紹介



《この街で子育てが出来て良かった！と思える街づくり》を目標に活動しています。  
子どもが本来持っている自ら育とうとする力を引き出し、その力に寄り添って応援する“子育て応援”や、子どもを育て見守る保護者を内と外から支え応援する“子育て支援”をしています。  
すべての子どもたちが安心して自信をもって自由に生きることができる社会を目指しています。

### 活動拠点を置く市町村

青梅市：人口 133,120 人（令和元年 12 月 1 日現在）

### 活動範囲

青梅市内全域・近隣他市・埼玉県・神奈川県

### 活動開始年月

平成 27 年 4 月

### 構成員

57 人（保育士、幼稚園教諭、小学校・中学校・高等学校教諭、社会福祉士、司書教諭、子育て支援員、青梅市知的障がい者相談員、食育アドバイザー、幼児体育講師、CAP スペシャリスト、BP ファシリテーター、おもちゃコンサルタント等の有資格者及び子育て経験者）

### 活動形態

保護者への学びの場の提供  
その他（

地域の居場所づくり  
）

訪問型家庭教育支援

### 活動対象

乳幼児  
中学生

小学生（低学年）  
高校生以上

小学生（中学年）

小学生（高学年）

の子供を持つ保護者に対する活動を実施

### 活動の目的・趣旨

乳幼児親子や子どもたちのための居場所づくりや安心して子育て・子育てができる環境づくりを目指し子育て中の親と子どもたちが楽しく交流できる場を提供しています。

子どもたちや保護者のできないことを代行するのではなく、子ども達や保護者が本来持っている力を発揮できるよう傍らに寄り添い働きかけ応援することを信条としており、スタッフは親として妻として子どもとして生活する「市民」の一人としての立場から「この街で子育てできて良かった！と思える街づくり」を目指しています。

## 主な活動内容

- ・乳幼児親子・子ども達のための居場所及び多世代交流の場 「青梅こども未来館」の開設
- ・乳幼児親子や子ども達の為の居場所づくり 市内の子育て支援センター・子育て広場・親子教室を青梅市から受託運営
- ・青梅市内小学校の放課後子ども教室推進事業「タヤケランド」にコーディネーターとスタッフを派遣
- ・青梅市との協働による「家庭教育講演会」の実施（年3回）
- ・子育て仲間づくりができる各種ワークショップ BPプログラム、月齢・年齢ごとの親子教室を青梅市より受託し親子に提供
- ・青梅市子ども家庭支援課との協働事業「集まれ！0・1・2・3 ちびっこ ランド」(0～3歳児親子対象の参加体験イベント)を毎年開催
- ・青梅市主催の講座・講演会開催時、また市内小学校PTA運営委員会時の集団託児を受託
- ・年長児から中学生までの放課後の居場所「Vivo くらぶ」を通年開催し、学習サポートや集団での遊びを大事にしている
- ・支援が必要な子ども達の為の放課後の居場所 仲間づくり・学習サポート・遊びの場の運営
- ・子ども達の健康な体作りを目的とした「飛ぶ教室」の通年開催
- ・「親子の絆づくり」を目的にわらべうたベビーマッサージ教室を「青梅こども未来館」で定期開催
- ・趣味や余暇を楽しめる各種サロン ストレッチ・手作り楽器の音楽教室・出張絵本屋・おもちゃ屋・アート講座などを「青梅こども未来館」で実施
- ・障がいのある子どもや育てにくいと感じる親子のサポート 子育て広場等における場面面接等
- ・CAP(子どもへの暴力防止・人権教育プログラム)ワークショップを小学校で実施
- ・市立病院小児科病棟での「病児のためのおもちゃの広場」開催
- ・市主催のオリンピック・パラリンピック関連イベント及び他団体の記念イベントでの「遊びの広場」プロデュースと実施
- ・子育て・子育て関連従事者の啓発事業への講師派遣 市内保育園・幼稚園連盟・企業での「遊び」講座
- ・ホームページ・ブログ・フェイスブック・ニュースレターによる情報提供など市内全域及び他市での多岐にわたって活動

## 活動の成果と今後の展望

子育てひろばや親子教室が、保護者同士のつながりを作れる場になっており、教室などの終了後も親子での付き合いが続いているという声が多数あります。

また子育てひろばは、小学生のほっとする場として通うお子さんも多く、スタッフと長期にわたって交流している様子が窺え、児童館のない青梅市では貴重な場となっています。

出産直後より0歳～小中学生までを対象とした事業・教室やサークルの運営により、年齢の途切れの無い支援を行うことができ、また担当スタッフが情報を共有し親子の応援・支援ができています。

今後は子育て応援の枠に留まらず「0歳～100歳まで」を対象とした多世代交流事業の実施を拡大していきたいと考えており、市内全域に在住し、それぞれの地域でPTA・自治会等の役員を積極的に担い活動しているスタッフの力を結集し、行政・他団体・地域の方々と広く連携し、直面する超少子高齢化社会において「誰もが幸せを実感できる社会」の実現を目指し活動していく所存です。





**活動経緯** 平成 19 年 7 月中越沖地震発災。青少年育成団体の一員として地域の小学校内に開設された避難所を 1 か月間運営し、居場所支援をしながら子どもたちの心のケア活動をしたことがきっかけで保護者からの相談を受けることが多くなり、有志で家庭教育支援チームを発足。その後、別のメンバーと東日本大震災によって柏崎市に避難された家庭を対象にした相談対応ができる居場所づくり応援団体を家庭教育支援チームと同じ名称で設立（相談窓口の 1 本化を図るため）。今現在の家庭教育支援チームよるんごの木は地域の青少年育成団体と広域的な相談窓口に対応できる団体との合同チームとして再編し、市内のあらゆる団体と連携を図りながら活動を推進しています。

**活動拠点を置く市町村** 柏崎市：人口 82,963 人（令和元年 12 月 1 日現在）

**活動範囲** 柏崎市内全域  
主として柏崎市立第二中学校区

**活動開始年月** 平成 21 年 4 月

**構成員** 柏崎市社会福祉協議会理事兼柏崎市青少年問題協議会委員 1 人  
子育てサポーター 3 人 個別相談員として主任児童委員 1 人

**活動形態**  
保護者への学びの場の提供 地域の居場所づくり 訪問型家庭教育支援  
その他（地域学校協働活動・体験活動への協力、子どもの安全見守り活動）

**活動対象**  
乳幼児 小学生（低学年） 小学生（中学年） 小学生（高学年）  
中学生 高校生以上 の子供を持つ保護者に対する活動を実施

**活動の目的・趣旨**

学校での保護者会時の子どもの預かりやコミュニティセンターでの居場所開設などの他、構成員は学校支援サポーターや地域コーディネーターをしながら、保護者と気軽に相談できる顔の見える関係となるための活動を行っています。

平成 21 年に中越沖地震後の心のケア活動の一環として行った聞き取り調査において、保護者の SOS から始まった取組みですが、保護者の働く時間帯も変容しています。子どもを預ける場所や環境、信頼出来る場所（空間・人）があるから、安心して働きながらの子育てができる、地域全体で子どもたちを見守り育める環境を構築したいと思って活動しています。

## 主な活動内容

### 相談連絡先の提示

今年度も放課後支援（子どもの居場所作り）および訪問活動を実施します！子育て等いろいろ悩んでしまうことも時々あるかもしれないけど、そんな時は主任児童委員へお気軽にご相談ください。地域内を戸別訪問させていただいています。また、放課後の居場所については、須田までご相談をお願いします！と毎年4月初めの広報紙で周知しています。



### 啓発活動

各種団体との連携による挨拶・交通安全・メディア・防犯等の啓発活動を実施。移行学級時には新1年生保護者に文部科学省発行のパンフレットを配付しています。



新1年生への交通安全教室

### 広報紙の発行

活動拠点の小学校を中心に親子料理教室や学習会、関係機関の情報をまとめた機関紙を発行。令和元年より活動拠点であるコミュニティセンター内に子育て応援情報コーナー（掲示板）を設置。

### 居場所づくり

児童等を預かる場を地域のコミュニティセンター等に設け、子どもや保護者と会話する中で悩みを聞くようにしています。

コミュニティセンター内 240日/年  
同 利用者数 延5,000人/年  
小学校内 学年懇談会・総会等5回/年  
同 利用者数 延250人/年

令和元年度は、市社協等との協働による「地域食堂」を開設（試行事業として2回実施）、子どもたちが高齢者とのふれあいの場、地域の人と繋がる場として更なる展開を模索中です。



ふれあい食堂

### 関係団体との連携

地域や他団体と連携し、キケンな場所を確認すると共に子ども自らの気づきを促しながら、安全安心な地域づくりを推進しています。（年1回実施）



地域安全マップづくり

### 学ぶ場の提供

地域コーディネーターとして、小学4年生が学ぶ福祉について講話し、地域の高齢者についての理解を促すとともに、関係機関との連携で子どもたちの学習の場を広げることができました。（高齢者への手紙作成・訪問等）

## 活動の成果と今後の展望

### <活動の成果>

- ・家庭での教育が行き届かない子どもの居場所を拠点とするコミュニティセンター内に設置し、学校と情報を共有しながら学習支援をすることが出来た。
- ・保護者が子どもを迎えに来た際に何気ない会話の中で悩みを傾聴することが出来た。

### <今後の展望>

- ・拠点となる児童生徒の居場所支援や市内での他団体との連携の中で研修会等を行っていますが、学ぶ機会だけではなく、主任児童委員と家庭訪問などを含めた相談機会を学校と一緒に取り組みたいと思う。



## 主な活動内容

### 子ども相談室



### 保護者相談会



### 広報誌「ほやほや」

**三国地区家庭教育支援チーム**  
三国コミュニティセンター 0776-82-6400

**子ども達、睡眠不足になっていませんか？**

子どもに必要な一日の睡眠時間とは？

年齢	必要な睡眠時間
新生児（0～3か月）	14～17時間
乳児（4～11か月）	12～14時間
幼児（1～2歳）	11～14時間
学童前期（3～5歳）	10～13時間
学童期（6～13歳）	9～11時間
ティーンエイジ（14～17歳）	8～10時間
大人（18歳～）	7～9時間
高齢者（65歳～）	7～8時間

年齢別に必要な睡眠時間です。睡眠時間の問題は、短いことに加えて、就寝時間が遅いことも問題です。0歳～4歳で10時以降に就寝する子が欧米ではおよそ15%～20%台なのに対して、日本では、4.7%なのだそうです。

● 眠りの質を上げよう！  
子どもの睡眠には早寝による有効な時間帯の確保が必要です。同じ10時間寝るにしても夜9時～翌朝7時と、夜10時～翌朝10時とは全く睡眠の質が異なります。よく言われるように、夜10時から家中の2階までは眠りのゴールデンタイムです。

● 睡眠不足が子どもの集中力と記憶力の低下に影響する

＜就学時子育て相談会＞  
三国南小学校、三国北小学校、加戸小学校の3校で「子育ておしゃべりタイム」を開催しました。入学を前に学校での生活や友だち関係など様々な気がかりなことが話題に上がりました。先輩保護者からの経験談やよきアドバイスも多く、不安も和らいだようです。なかなかなりに話し合いが進みました。

家庭教育支援員のひとこと  
私たちは睡眠を十分にとり、健康に過ごします。

保護者相談室もご利用ください  
子育てでお悩みの方、気軽にご相談においでください。日時や場所などは皆様のご都合に合わせて。お気軽にお電話ください。  
《連絡先》 三国コミュニティセンター 奥原まで ☎ 82-6400

おしゃべりルーム活動日  
毎週月曜日 三国北小学校  
毎週水曜日 三国南小学校  
毎週金曜日 加戸小学校  
毎週木曜日 三国西小学校

### 【春江地区】おしゃべりサロンスペシャル



## 活動の成果と今後の展望

学校での様々な機会を利用したり、親子で楽しめるイベントを開催したりすることで、保護者が悩みを相談しやすい環境をつくっています。参加者からは「みんな同じような悩みを持っているとわかり、なんとなく安心した」「支援員の具体的な話を聞いて良かった」との意見があります。

さらに、支援員の訪問を楽しみにしている児童も多く、支援員もそれを励みに楽しみながら児童との絆を深めています。

今後も、学校・家庭・地域との連携を更に深め、相談しやすい環境や学習の場の提供に努めながら、子どもたちの成長・親育ちにつながるような活動を進めていきたいと考えています。



ゆったり・ほっこり



# 赤ちゃんカフェ・UPカフェ

下呂市家庭教育支援チーム

「ママ友や地域のおばちゃんたち（チームスタッフのこと!?）と出会い、声をかけあえるママたちのつながりをつくる場にしたい!」と、ママたちが気軽に集える『赤ちゃんカフェ』（0歳のこどもを持つママ対象）と『UPカフェ』（年齢に関係なく子育て中のママ対象）を開いています。（下呂市委託事業）

手作りお菓子とお茶をいただきながら、おしゃべりや子育ての情報交換、バラエティーに富んだメニューのプチ講座を開いています。

活動拠点を置く市町村

下呂市：人口 32,008 人（令和元年 12 月 1 日現在）

【問い合わせ】下呂市役所 市民活動推進課 0576-24-2222

活動範囲

下呂市内全域（下呂・萩原・金山・小坂・馬瀬）

活動開始年月

平成 22 年 5 月

構成員

9 人（子育て経験者 & 子育て中のママ）

活動形態

地域の居場所づくり 保護者への学びの場の提供

おすすめポイント：カフェスタイルで気軽に参加できます！



活動対象

0 歳から未成年のこどもを持つ保護者 & 妊婦さん に対する活動を実施

活動の目的・趣旨

## ママの元気は、こどもの元気

悩みの  
軽減

親学び  
の場

リフレッシュ  
の場

ママ友  
づくり

のんびり おしゃべりしませんか？

## 主な活動内容

### フリートーク



悩みを聞いてもらったり、先輩ママからアドバイスをもらったり！

### フキ体験



ヨガ、リトミック、ストレッチなど楽しい企画もいっぱい！

### 自己紹介



ママ友づくりや地域デビューの場にもってこい！妊婦さんの参加大歓迎！

### 子育て講話



食育、睡眠、歯科衛生など、講師を招いた親学びも実施！



手作りお菓子もお楽しみ！

### Menu

#### ●赤ちゃんカフェ

0歳児を持つママ対象

#### ●UPカフェ

年齢に関係なく子育て中のママ対象

♪妊婦さん大歓迎♪

## 活動の成果

- ✓ 子育ての悩みを気軽に話し合い、ママ同士共感できたりアドバイスし合えたりできる場となっています。「悩んでいるのは自分だけじゃないと分かり、気持ちが楽になった。」などの声が多く寄せられています。
- ✓ 毎回の催し物や手作りお菓子と飲み物の提供も大好評！心も体もリフレッシュできる場になっています。
- ✓ 特に一人目のお子さんのお母さんたちには、ママ友作りのきっかけとして喜ばれています。

## 今後の展望

- 妊婦さんにもっと参加してもらい、出産や子育てへの不安を軽くし、期待と楽しみに変えてもらえたらいいなと考えています。



## 主な活動内容

### 家庭教育ワークシート「つながるシート」を活用した学習会の開催

市内の小学校(全18校)で、小学校1年生の保護者を対象に、「つながるシート」を活用したグループワークを行う学習会を開催しています。「つながるシート」は、子育てや家庭教育について自由に話し合う際に使用するワークシートです。地域や保護者の実情に合わせた、身近な内容の「島田版つながるシート」を作成し、活用しています。アイスブレイクで場を和ませ、シートに沿って日頃の何気ない悩みや不安についての話し合いを進めます。時には、子育てに関するヒントとして絵本の読み聞かせをしています。

アイスブレイクの様子



保護者同士の話し合いの様子



### 就学時健診や入学説明会における「親学講座」の実施

市内の小学校(全18校)で、就学時健診や入学説明会に合わせ、全ての保護者に家庭教育の学びを届ける「親学講座」を実施しています。ペアレントサポーターが講師となり、自身の失敗談などを交えながら話すことで、保護者が親近感を持って話を受け入れられるよう工夫しています。講座では、市独自の「親学ノート」を活用しています。より分かりやすい資料にするための改訂も行っています。

親学講座の様子



島田市独自の親学ノート(H29改訂)



## 活動の成果と今後の展望

- ペアレントサポーターが和やかな雰囲気作りをしているため、保護者が安心して話し合うことができます。また、「先輩ママ」という身近な立場で、自身の失敗談を話したり、悩みを聴いたりすることで、保護者の不安を和らげています。
- 市独自の資料を作成し改良することで、保護者の話し合いが活性化し、学びが深まっています。
- 今後も全ての市内小学校で、「つながるシート」を活用した学習会と親学講座を継続して実施していきます。

稲沢市家庭教育支援チーム

 **稲沢子育てサポートネット** 

チームの紹介

地域在住の子育て経験のある者が、県で養成している講座や研修を受け、「子育てネットワーク」として、家庭教育・子育て支援に関する活動を実施、親同士のネットワークづくりのための「親子ふれあい広場」や親子遊びを提供する「すくすく広場」の開催、電話やメールによる子育て相談や、依頼に応じたセミナーへの講師派遣などを行っている。

また、質の高い子育て支援を目指し「子育て支援研究会」を定期的で開催し学びの場を提供、他の子育て支援グループや現役のママも参加しての交流・意見交換も行っている。そして、意識調査等を行い育児不安などに対応する「子育て支援プログラム」を構築中である。他市や他グループと連携して、子育て支援者養成やスキルアップの講座、他地域の支援事業への協力も行っている。

**活動拠点を置く市町村** 稲沢市：人口 約 13 万人（令和元年 12 月 1 日現在）

**活動範囲** 稲沢市内全域、尾張地区

**活動開始年月** 平成 12 年 4 月

**構成員** 13 人（元教員 1 人、子育て経験者 3 人、音楽講師 2 人、保育士 4 人、大学講師 1 人、子育て支援センタースタッフ 2 人）

活動形態

保護者への学びの場の提供      地域の居場所づくり      訪問型家庭教育支援  
その他（相談対応）

活動対象

乳幼児      小学生（低学年）      小学生（中学年）      小学生（高学年）  
中学生      高校生以上      の子どもを持つ保護者に対する活動を実施

活動の目的・趣旨

ママだけのワンオペ「孤育て」から、みんなが関わる「子育て」へ。辛い「育児」から、楽しみながらの「育児&育自」へ。ジェンダーの視点をふまえ、子育て期の親子を支援することを目的としている。

母親自身にも「子育ては母親がするもの」意識がまだまだ強く、父親の育児時間もなかなか取れない。さらに、「女性も仕事で活躍」が求められ、「子どもに不寛容な社会」で子育てをするストレスや負担は、ますます大きくなっている。

このような親の子育て不安感・子育て負担感を軽減し、親自身をエンパワーメントする「子育て支援」を、検討・研究し、実践していきたい。

主な活動内容

親子ふれあい広場



すくすく広場



親子遊びを通して、親子のふれあいや出会いの場の提供をします。

子育てセミナー等  
(講師派遣)



参加者より

不安や悩みが話せて、気持ちにゆとりができました。

人見知りですが、頑張らなくても他のママと仲良くなれてうれしいです。

パパが子育てに積極的になりました。また行きたいと言っています。

子育て支援研究会



連携事業等



活動の成果と今後の展望

・「親子ふれあい広場」参加者のアンケート結果より、親子遊びを楽しむ、子育て仲間づくり等を通して、母親の子育て不安の解消に役立っていることがわかる。

図1 講座で友達できた？

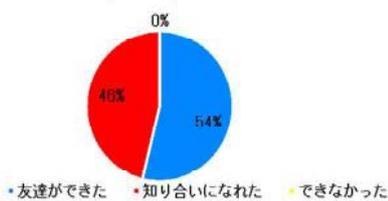


図2 講座は満足？

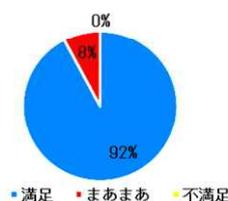
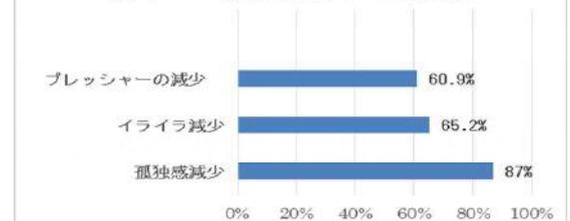


表1 講座後のママの変化



- ・サービス提供型、イベント型の子育て支援が増えている。子育て支援が、それらにとどまらないよう、親自身の力を引き出すものにしていきたい。
- ・人と繋がるのが苦手な親が増えている。親同士が繋がるきっかけを上手く提供することも支援者の役割として、実践していきたい。
- ・母親の仕事復帰が早まり、0歳と1歳以上の親のニーズの違いが大きくなった点を検討したい。このような近年の変化にも対応できるよう、調査を行いながら子育て支援の在り方を検討し、プログラムを開発し、子育て支援を実践していきたい。支援者のスキルアップや支援者の連携も行っていきたい。

# 家庭教育支援チーム 「すこやか倶楽部おおみや」

家庭教育支援チーム「すこやか倶楽部おおみや」は、平成20年度から、保護者同士の絆をつなぐことを目的に、子育てサロンや交流会などを行ってきました。

また、高校生のライフプランニングの支援につながるような取組も行い、幅広い世代に関わることで、地域のネットワークづくりを目指しています。

活動拠点を置く市町村

京丹後市：人口54,484人（令和元年11月末現在）

活動範囲

京丹後市大宮町内全域

活動開始年月

平成20年4月

構成員

6人（元民生委員、消費生活指導員、社会教育委員、元保育所長、保育所職員）

活動形態

保護者への学びの場の提供

地域の居場所づくり

訪問型家庭教育支援

その他（高校生と赤ちゃんの交流）

活動対象

乳幼児

小学生（低学年）

小学生（中学年）

小学生（高学年）

中学生

高校生以上

の子供を持つ保護者に対する活動を実施

活動の目的・趣旨

保護者同士のつながりや地域のつながりを大切にしながら、地域全体で子育てに寄り添い、見守っていく環境づくりを目指しています。



## 主な活動内容

### 子育て広場「すこやかROOM」



公民館を拠点として、乳幼児親子を対象にサロンを開いています。

大きいだるまさんがたくさんできて子どもも楽しそうでした。サポーターさんがとてもフレンドリーで楽しかった。



### 子育て交流会



入学説明会で入学前の保護者を対象とした「親のための応援塾」ファシリテーターをしています。

普段交流できない方と話できて良かった。入学前に先輩の保護者の方と交流ができて安心して入学式を迎えられます。



### 高校生と赤ちゃんのふれあい交流事業



子育て支援センターで高校生と赤ちゃん、保護者の交流を行っています。

赤ちゃんはずっしりと重くてびっくりしました。赤ちゃんの肌は柔らかくてすべすべしていて、じっと見つめてくれるしぐさがかわいく、とても愛おしく思いました。



## 活動の成果と今後の展望

### 【成果】

12年間の活動を通して、保護者が気軽に相談ができる身近な場所として効果が出てきています。乳幼児から保育所・小学校の保護者へのアプローチを継続的に行うことで保護者と地域のつながりができ、「つながっている」「見守られている」という安心感が生まれてきています。

### 【展望】

大規模学校での交流会がスムーズに開催できるように、子育てサポーターの増員に加え、幅広い地域の方々に、家庭教育支援への高い意識を持ってもらえるような事業の展開を目指しています。

# 泉大津市家庭教育支援チーム



子育てに悩みを抱えている保護者、相談できる人が近くにいないと孤立しがちな保護者に寄り添い、「意味あるムダ話」をしながら、保護者が子育てに対して自信をもてるよう、サポートをしています！

家庭訪問型と小学校配置型の2つの支援を組み合わせて活動しています！

活動拠点を置く市町村

泉大津市：人口 74,548 人（令和元年 12 月 1 日現在）

【問合せ先】泉大津市教育委員会事務局 指導課 0725-33-9357

活動範囲

泉大津市内全域 和泉市（調整区域）

活動開始年月

平成 17 年 4 月

構成員

サポーター 9 人（子育て経験者 9 人）市 SSW、市 CSW、市教委指導主事

活動形態

保護者への学びの場の提供  
その他（

地域の居場所づくり  
）

訪問型家庭教育支援

活動対象

乳幼児  
中学生

小学生（低学年）  
高校生以上

小学生（中学年）

小学生（高学年）

の子供を持つ保護者に対する活動を実施

活動の目的・趣旨

## 保護者の「エンパワメント」

ひたすら保護者の話を聞きます！

保護者の話すことに耳を傾け（傾聴）

保護者がしたい話をします

（保護者との「**意味あるムダ話**」）

「お土産」を持って伺います！

保護者がもらってうれしい「お土産」

（＝子どもの成長した姿、頑張っている姿）

を伝えます

信頼関係を築いて、学校などにつながります！

必要な場合は、福祉の専門家等と連携

して、必要な支援先につながります

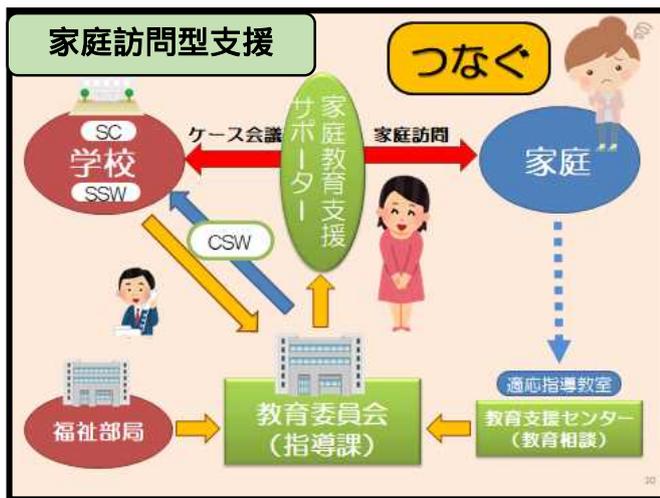
保護者が「エンパワメント」されて

きたらフェードアウトします！

家庭教育支援サポーターは“松葉杖”

のような存在です

主な活動内容



教育と福祉の連携強化

【取組み 1】

支援する保護者を拡大

小・中学生

(6歳～15歳)



乳幼児

(0歳～6歳)

シームレスの支援

【取組み 2】

福祉部局の担当者との連携強化

心理職  
要対協職員  
保健師  
就学前施設  
(公立・民間)

顔の見える関係

福祉部局からのオファー  
全10件  
心理職 : 8件  
要対協職員 : 2件

活動の成果と今後の展望

〔活動の成果〕

・保護者が子育てに前向きになることによって、子どもの問題行動(落ち着きのなさ、暴力的な素行、不登校状態)にも改善傾向が見られるケースが増えています。

〔今後の展望〕

・できるだけ早い段階での支援開始をめざして、福祉部局との連携をさらに進めていきます!

活動実績

< 家庭訪問型支援 >

H29 訪問回数 101 回	支援した家庭数 : 13 家庭
H30 訪問回数 142 回	支援した家庭数 : 12 家庭
R1 訪問回数 93 回	支援した家庭数 : 20 家庭

(福祉部局からのオファー含む)

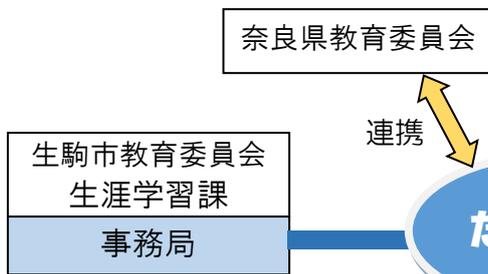
< 小学校配置型支援 >

H29 配置回数 197 回	情報共有した家庭数 : 25 家庭
H30 配置回数 240 回	情報共有した家庭数 : 35 家庭
R1 配置回数 204 回	情報共有した家庭数 : 30 家庭

令和元年度については、12月末現在



## 主な活動内容



### 研修の開催

- 支援チーム員の能力向上や今後の活動の発展をめざす。
- 講習会 コーディネーターや外部講師による家庭教育支援の目標や推進方法等についての講習
  - 先進地視察 先進的な活動を行っている他府県の取組について学ぶ視察研修

### 定例会議の開催

月1回会議を開催。イベント計画や研修などチームの活動について協議。



### ふれあい交流イベントの開催

「みんなであそびとごはん」をテーマとした交流イベント「たけのこふれ愛」を開催。各種団体や企業と連携し身近にあるものを活用した様々な体験遊びや手づくりの食事の提供を通して、親子や地域で活躍する市民とのつながりづくりに努めている。

また、元教員のチームメンバーと保護者が自由に語り合いながら、様々な疑問や困りごとを相談できる場も設けている。

平成30年度 生涯学習施設での開催 3回

令和元年度 学校・園での開催 3回

#### 体験

工作、リース作り  
囲碁、読み聞かせ

#### 手づくりの食事

カレーライス



#### 遊び

バルーン、輪投げ  
段ボール迷路

#### 子育て講話・相談

『たけのこカフェ』



- 学校・園
- 市PTA協議会
- 民生児童委員
- こども食堂
- いこま寿大学
- 子育て支援団体
- 民間企業



## 活動の成果と今後の展望

設立2年目で、ふれあい交流イベントを通してチームの周知が少しずつ広がってきています。保護者の子育て支援をさらに充実させるためにも、学校との連携や市の他事業との連携を図るなど、効果的な手段を探っていきます。また、今後訪問相談等を含め先進地の取組を学ぶなどしてチームのスキルアップを目指します。

生駒市家庭教育支援チーム「たけのこ」 事務局：生駒市教育委員会事務局生涯学習課

〒630-0288 奈良県生駒市東新町 8-38 [TEL:0743-74-1111](tel:0743-74-1111)(内線 648)

# 勝央町家庭教育支援チーム「あすなろ」

「あすなろ」という木をご存知ですか。  
「あすは ひのき(檜)になろう」と  
未来に向かって伸びていく木です。  
私たちは、  
明日に向かって成長していく  
未来ある子どもたちや、  
そのご家庭の手助けができればと願い、  
このチームを立ち上げました。  
「あすなろ」は年4回を目標に発行し、  
チーム員がご家庭にお届けします。  
情報誌「あすなろ」を絆に、  
お子様を持つご家庭と  
つながっていけることを願っています。

活動拠点を置く市町村 勝央町：人口 11,094人（令和元年12月1日現在）

活動範囲 勝央町内全域

活動開始年月 平成28年8月

構成員 9人（元教員3人、民生児童委員2人、元保育士1名、子育て経験者3人）

## 活動形態

保護者への学びの場の提供  
その他（  
地域の居場所づくり  
訪問型家庭教育支援

## 活動対象

乳幼児  
小学生（低学年）  
小学生（中学年）  
小学生（高学年）  
中学生  
高校生以上  
の子供を持つ保護者に対する活動を実

## 活動の目的・趣旨

「孤立家庭をつくらない」「不登校、ひきこもり、ニートの予防」を目的に、家庭教育専門員を中心とした9名でチームを組織しています。子育て・家庭教育情報誌「あすなろ」を3カ月に1度作成し、町内小・中学生のいる約700家庭を全戸訪問しています。情報誌を手渡しすることで、顔の見える関係づくりを構築しています。

## 主な活動内容

### ①子育て・家庭教育情報誌「あすなろ」を配布

顔と顔の見える関係をつくり、子育てを応援します。



### ②小学生対象「あすなろ冬休み宿題教室」を開催(平成30年度～)

書初めやワーク等の宿題をする場所を提供し、チーム員が見守ります。

宿題を終えた子は、工作やけん玉コーナーで過ごします。

昼食も、家庭の負担を少なくするため、チーム員が材料を持ち寄り、手作りで提供する工夫もあり、人気の教室です。



## 活動の成果と今後の展望

訪問の回数を重ねるごとに相談件数も増え、チーム員の訪問を心待ちにしてくださるご家庭も、必要に応じて学校と家庭のパイプ役も果たすようになり、学校や家庭との信頼関係もできてきました。今後も、「無理なく、できる事を、できる範囲で」活動を続け、チーム員の世代交代も考慮していきたいと思ひます。

# 府中町家庭教育支援チーム「くすのき」

府中町子育て

「地域全体で子育て・親育ち応援!!」

～地元を愛し、お互いに元気になろう～



## 府中町家庭教育支援チーム『くすのき』って？

子供が自立した大人に成長できるように、また、保護者が子育ての不安や悩みをかかえたまま孤立することがないように、地域・学校・行政と連携をとって、子供の育ちや子育てを見守っていけるよう広島県教育委員会が開発した「『親の力』をまなびあう学習プログラム」ファシリテーター養成講座修了者で構成されたチームである。

活動拠点を置く市町村

広島県安芸郡府中町：人口 52,196 人（令和元年 12 月 1 日現在）

活動範囲

府中町内全域、依頼により広島県内の近隣市町

活動開始年月

平成 25 年 4 月

構成員

151 人（教育委員、社会教育委員、民生・児童委員、公民館運営審議委員  
学校支援地域本部コーディネーター、保育士、PTA 役員、行政職員  
地域学校協働活動ボランティア 他）

活動形態

保護者への学びの場の提供  
その他（情報提供

地域の居場所づくり  
）

訪問型家庭教育支援

活動対象

乳幼児  
中学生

小学生（低学年）  
高校生以上

小学生（中学年）

小学生（高学年）

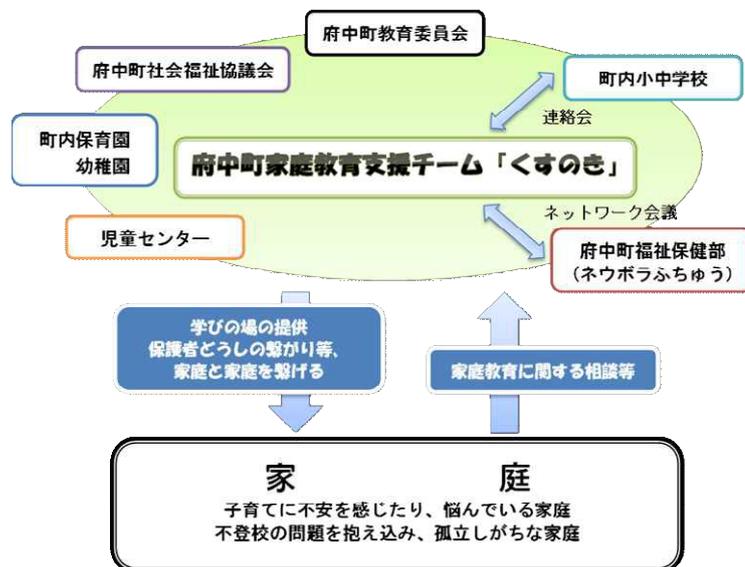
の子供を持つ保護者に対する活動を実施

活動の目的・形態

家庭教育の支援を目的に「『親の力』をまなびあう学習プログラム」を実施するファシリテーターのグループを元に立ち上げ、6名のコーディネーターを中心に月に1～2回会議を開催、事業計画の立案、教材の作成、カフェ・研修会・講演会の企画・運営など行っている。

町内の小・中学校や保育園・幼稚園、各地域団体等と連携し、パイプ・コーディネーター役となっている。

平成 29 年からは、不登校に悩む親の支援にも取り組んでいる。



## 主な活動内容・成果

### 親プロ班

「『親の力』をまなびあう学習プログラム」を使って！  
プログラムを通して、楽しく和やかな雰囲気の中で、気付きによる親の学び、保護者どうしの関係づくり、地域全体で家庭教育を支援するネットワークづくりに、役立ちます。  
保育園・幼稚園・小学校・公民館事業・子育て支援事業・地域活動など様々なところでを行っています。

### しゃべり場班

保護者が楽しく参加し語り合うために!!  
クラフト講座やカラーセラピーなどを取り入れ、様々なスタイルで保護者どうしの繋がりづくりやリフレッシュの場『しゃべり場』を行う班です。

### 託児班

少し子供とはなれてゆっくりと...  
親の学びを応援!!  
親プロでの託児の他にも各種行事、会議での託児を行っています。

### 広報班

家庭教育を支援する情報を発信!!  
パンフレットやチラシの作成・インターネットによる家庭教育の情報提供を行っています。

### 訪問班

すべての家庭に情報を...  
外に出かけにくい方への情報提供を行っています。

コ  
ー  
デ  
ィ  
ネ  
ー  
タ  
ー



### 「親の力」をまなびあう学習プログラム

広島県が開発した子育てについて交流しながら学び合う「寄って、話して、自ら気づく」参加型の学習プログラム

平成 29 年度 活動実績

実施回数：104 回

受講者数：1,865 名

平成 30 年度 活動実績

実施回数：44 回

受講者数：1,030 名

・地域課題に応じたオリジナル教材の作成



### 不登校児童生徒の保護者への支援

- ・親子で参加できる『クラフト&しゃべり場』を組み合わせた不登校支援カフェの定期開催（月 1 回）
- ・『親の会』の開催（月 1 回）
- ・講演会



## 課題と今後の展望

- ・福祉保健部や学校などとの連携をさらに強化することで、支援の必要な家庭の早期発見に努め、SNS や ICT を活用し、本当に支援が必要な人に支援の情報等が届く仕組みを作る。
- ・ファシリテーターの資質向上や『親プロ』の継続により、切れ目のない家庭教育支援の充実を図る。

# 「とどける」家庭教育支援 平田の子どもたち元気応援チーム

## チームの紹介

チームが発足して4年目となり、支援員は3名と少なくなりましたが、3年間で積み上げてきた活動をもとに、学校と家庭と地域を一つの連携協働体としてつなぎ合わせる「かすがい」のような存在として、保護者の居場所づくり支援と個別支援を中心に、保護者に寄り添う支援を継続的に展開しています。

活動拠点を置く市町村

岩国市：人口 133,682 人（令和元年 12 月 1 日現在）

活動範囲

平田中学校区

活動開始年月

平成 28 年 7 月

構成員

3 人（元教員 2 人、元保育士 1 人）

活動形態

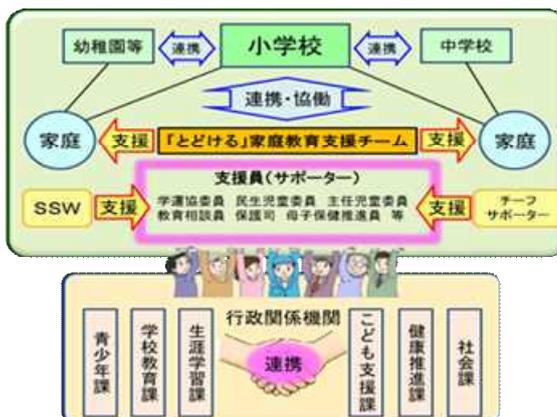
保護者への学びの場の提供      地域の居場所づくり      訪問型家庭教育支援  
その他（子育て相談会の開催）

活動対象

乳幼児      小学生（低学年）      小学生（中学年）      小学生（高学年）  
中学生      高校生以上      の子どもがいる保護者に対する活動を実施

活動の目的・趣旨

課題を抱える家庭や孤立しがちな家庭等を対象に、学校と協働して不登校や登校渋りの児童生徒の支援にあたりるとともに、子育てや家庭の課題に関する相談対応や情報提供等を通して、保護者の不安や悩みに寄り添い、家庭の自立と課題解決につながる専門機関への橋渡しを展開する。



## 主な活動内容

### (1) 常時活動(毎週火・木曜日)

- あいさつ運動 ... 登校渋りの児童の把握及び保護者との関係づくり  
打ち合わせ ... 教育相談担当との情報共有及び訪問家庭の確認  
家庭訪問 ... 家庭訪問による登校支援や相談対応、現状の把握



あいさつ運動



打ち合わせ



家庭訪問

### (2) 定期活動

- おしゃべり広場「ほっこり」... 8月を除く毎月第2月曜日に校区内の供用会館で行う相談会  
参観日「ほっこり」... 低学年児童の保護者を中心に、参観日の授業前に校内で行う相談会  
シュークリームのお会 ... 相談会に来ることが難しい保護者を対象に行う個別の相談会  
子育て学習会 ... 一日入学時に新入学児童の保護者を対象に行う家庭教育に関する学習会



参観日「ほっこり」



シュークリームのお会



子育て学習会

### (3) 「とどける」家庭教育支援チームサポーターとしての活動

- サポーターチーム会議 ... 毎月第3火曜日に平田小で開催し、他校支援員の相談等に対応  
相談会支援 ... 他校の相談会に同席し、支援員をサポート  
取組事例の発表 ... 他校支援員の活動の充実を図るために、研修会において情報を提供



サポーターチーム会議



相談会支援



取組事例の発表

## 活動の成果と今後の展望

学校と家庭をつなぐ橋渡し役としての地道な活動が、多くの保護者に認知され、保護者の安心感や課題解決に結びついている。支援員が3名となった今、個別支援と居場所づくり支援を両輪に適宜適切な支援を家庭に届けながら、持続可能な体制づくりに向けて取り組んでいる。

今後は、学校と家庭と地域をつなぎ合わせる「かすがい」として保護者に寄り添う支援を継続するとともに、今年度から市内小学校を対象に展開されている家庭教育支援事業のリーダー的な存在として取組の成果を他校に波及させることにより、「子育てしやすいまちづくり」の一助となりたい。

## 家庭教育支援チーム

# 育みクラブ

### チームの紹介

阿南市においては、平成16～19年度に、文部科学省委託事業「家庭教育支援総合推進事業」を実施し、平成19年度には、子育て相談に関する事務所を開設した。

平成20年度、文部科学省委託事業「地域における家庭教育支援基盤形成事業」により、相談員3名、アドバイザー4名を配置し、阿南市に家庭教育支援チーム「育みクラブ」が発足した。相談員として元教員、元保育士が、アドバイザーとして臨床心理士、保健師、助産師、社会教育指導員が担った。

平成21年度、文部科学省委託事業「訪問型家庭教育相談体制充実事業」となり、電話・来所相談の他に、訪問相談や講演活動、保・幼・小・中の家庭や企業にアンケートなども行い、育み通信「育みクラブ第2号～5号」の制作・配布による子育ての啓発活動も継続した。

平成22年度に、前年までの国の事業が廃止されることとなったが、ボランティア活動として、相談業務等を引き継いで行うこととした。以降、ボランティアで電話・来所相談、育み通信「育みクラブ」の制作が継続されている。

#### 活動拠点を置く市町村

阿南市：人口72,720人（令和元年12月1日現在）

#### 活動範囲

阿南市内全域

#### 活動開始年月

平成20年4月

#### 構成員

相談員7人（元教員6人、元保育所長1人）

アドバイザー4人（臨床心理士、助産師、保健師、社会教育指導員）

#### 活動形態

保護者への学びの場の提供

地域の居場所づくり

訪問型家庭教育支援

その他（保護者への相談支援）

#### 活動対象

乳幼児

小学生（低学年）

小学生（中学年）

小学生（高学年）

中学生

高校生以上

の子供を持つ保護者に対する活動を実施

#### 活動の目的・趣旨

少子高齢化や家族形態の多様化、人間関係の希薄等が進む現代社会において、地域住民との連携を深め、子育て支援の広がりを図る「育みクラブ」として、育み通信の配布による子育ての啓発活動や、子育てを一人で抱えてしまい、不安を感じる保護者や家族への様々な悩み事の電話・来所相談を行っている。

## 主な活動内容

子育てされている保護者への相談支援や育み通信による啓発活動を行っている。

### (相談事業)

月曜日から金曜日の午前中に、7人の相談員が一人ずつ交互で担当している。電話相談が主であるが、相談者の希望により来所相談を行っている。また、月に1度は、アドバイザー（臨床心理士）が加わった来所相談日も設けている。相談員は、元保育士や元教員が担い、その豊かな経験を生かして相談業務にあたっている。電話相談・来所相談は、母親からの育児や子育てに関する相談内容にとどまらず、子供の特別支援教育や不登校等の生徒指導関係、精神疾患等に関する専門的な知識を必要とすることもあり、内容も多岐にわたり複雑化している。このため、必要に応じて、学校や臨床心理士、関係機関等と連携をとりながら進めている。相談員たちは、個々の相談内容の本質を正確に理解し、的確なアドバイスとなるよう、研修会に参加する等、日々研鑽を積んでいる。

### (啓発活動)

6月と11月の年間2回、育み通信「育みクラブ」を発行している。阿南市の保・幼・小・中に在籍する全ての家庭への配布と公共施設での掲示をしている。相談事業の紹介と子育てに関するアドバイスがその内容である。配布の際には、各保・幼・小・中を訪問し趣旨を説明する等、子どもの健全な育成を願い、手間と時間を費やした啓発活動を展開している。



【育み通信「育みクラブ」】



【定例会の様子】

## 活動の成果と今後の展望

相談事業の内容は深刻な場合が多く、時には数年に及び関わっているケースもある。毎月、来所相談を継続している方は、子供の就職や進路、学校生活でのストレスによる精神的な病気などの悩みを抱えていた。相談員の的確で心に寄り添った支援により、問題の多くが解決の方向に向かい、それぞれが前向きに夢をもつまでに至っている。相談員にとっても、嬉しい限りである。多くの場合、直ちに悩みが解消できる訳ではないが、より良い方向に改善がみられ、相談者から笑顔が見られるようになったり、将来に向けて夢が語られるようになったりしている。これらは、相談者の幸せを願い、一つ一つをこつこつと積み上げていく、「育みクラブ」の地道な取組の大きな成果である。

家庭と各種機関や住民団体をつなぎ、相談員たちのボランティア活動で継続されている「育みクラブ」の活動が、地域の子育て応援団となることを願っている。

子育て家庭のしあわせをサポート

# 久万高原Happyサポート

## 久万高原Happyサポートを紹介します

地域子育て支援センターHappy Houseを拠点に平成20年スタート  
子育て家庭の身近にいる地域の人たちがチームを作って、家庭教育や子育てを応援  
子育て情報の発信・学習会の提供・相談活動を基本に展開するきめ細やかな支援  
子育て世代と地域をつなぐ架け橋として、様々な機関や団体と連携  
保健センター・学校などの機関と連携して幅広い活動を展開

活動拠点を置く市町村 久万高原町：人口 8,096人（令和元年12月1日現在）

活動範囲 久万高原町内全域 活動開始年月 平成20年6月

### 構成員

17人（臨床発達心理士1人、元教員1人、保健師1人、保育士4人、保育支援員6人、コーディネーター1人、子育てサポーター2人、久万高原町職員1人）

### 活動形態

保護者への学びの場の提供 地域の居場所づくり 訪問型家庭教育支援  
その他（乳幼児の親子への遊びの提供、母親同士の仲間づくりの応援、子育ての悩み相談）

### 活動対象

乳幼児 小学生（低学年） 小学生（中学年） 小学生（高学年）  
中学生 高校生以上 の子どもを持つ保護者に対する活動を実施

### 活動の目的・趣旨

子育てに取り組む元気が湧いてくるような支援をする。  
子育ての楽しさを見出すような支援をする。  
誰もが利用しやすく、わかりやすい支援をする。  
リラックスできる環境の中で、さりげなく関わっていく支援を継続する。  
子どもの発達の知識やカウンセリングの素養のある専門機関と連携する。  
子育て世代と地域をつなぎ、地域全体で子どもの成長を応援する。



## 主な活動内容

## 地域に根差したきめ細やかな支援

子育て通信「キラリ」発行  
町内の子育て世代への情報発信  
学習会「Happy カフェ」の開催  
専門講師や地域の身近な人材を活用した講座、子育てトーク、  
カルチャーレッスンなど多彩な内容で開催  
子育て相談実施  
Happy House でのグループ相談、個別相談、町内小学校（幼稚園）  
を訪問する出張相談



〔学校へのお出張相談〕



〔Happy カフェ  
笑顔あふれる子育てトーク〕

保健センターとの連携  
乳幼児健診や離乳食・食育教室参加  
新米ママのつどい(妊婦教室)「Happy カフェ」との合同開催  
療育相談、療育教室（発達障害、気になる子どもへの対応）  
子育て広場の訪問、仲間づくりの応援

## 地域とのつながりの中で広がる支援

### 高校生と乳幼児のふれあい体験

若者の子育てへの関心を高めてもらおうと、愛媛県立上浮穴高等学校と協力して「高校生と乳幼児のふれあい体験」を実施している。現代の若者は赤ちゃんに触れ合う機会が少なく、育児の当事者になって初めてその難しさに直面し、戸惑うと言われている。そんな若者に、子育ては楽しく感動的であるとともに、困難も多いということを知ってもらう貴重な体験となっている。

### ハッピーday

子育て世代と地域の方との交流を目的に実施している「ハッピーday」では、曜日を決めて拠点施設の Happy House を開放し、地域の経験豊かな方々にお手玉・あやとりなどの昔遊びを教わったり、一緒にわらべ唄を歌ったりして、ゆったりと過ごすなど、世代を超えて交流している。春には野菜の苗植えをして収穫を楽しみ、夏休みには隣接する児童館の小学生たちも Happy House に来て、乳幼児との触れ合いを楽しんでいる。また、児童館の夕涼み会には親子を招いて交流したり、町内のオカリナグループやコーラスグループを招き、演奏を聴いたりするイベントも行っている。Happy House を利用する親子は、地域の方々の優しい眼差しに見守られながら安心して子育てに向き合うとともに、地域の方々は、小さいお子さんに癒される空間になっている。



〔高校生との乳幼児ふれあい体験〕



〔地域のコーラスグループとの交流〕

### 【活動の成果】

子育ての日常を支える Happy サポートの地道な活動は、子育てに携わっている人々に元気を与え、母親が自信を持つことで、未来を担う子どもたちの成長に結びついている。また、保健センターなど様々な機関と連携することで支援の質を高め、町内の子育て家族に安心していただき信頼を得ている。

### 活動の成果と今後の展望

### 【今後の展望】

子育て家庭と地域をつなぐ架け橋としての役割を担い、地域のあらゆる機関とつながり、久万高原町全体で子どもを育てることに貢献していきたい。いつの時代にも、Happy サポートの理念「元気が湧いてくるような、楽しさを見出すような子育て」を心にとめて支援していきたい。

佐伯市子パンダ支援チーム



「就学前の慌てない子育てのヒント」を伝えるため、就学前の児童とその保護者を対象に実施している家庭教育講座「佐伯市子パンダプログラム」。この講座を広める活動をしているのが、**佐伯市子パンダ支援チーム**です。子パンダという名称は、転んでも転んでも起き上がるパンダの姿を、今を生きる子どもに照らしあわせて名付けました。また参加者にとって、気軽に親しみのある事業になってもらいたいという思いが込められています。

活動拠点を置く市町村

大分県佐伯市：人口 70,804人（令和元年12月1日現在）

活動範囲

12の中学校区ごとに、市内全域で実施

活動開始年月

平成29年4月

構成員

8人（元教員7人、子育てサロン主宰1人）

活動形態

保護者への学びの場の提供      地域の居場所づくり      訪問型家庭教育支援  
 その他（親子参加型ワークショップ）

活動対象

乳幼児      小学生（低学年）      小学生（中学年）      小学生（高学年）  
 中学生      高校生以上      の子どもを持つ保護者に対する活動を実施

活動の目的・趣旨

「就学前の慌てない子育てのヒント」を伝えるため、以下の内容の講座を市内全域で実施しています

対象	就学前の児童とその保護者
日程会場	幼稚園・こども園の参観日や、小学校の就学前健診・入学説明会と併せて開催 公民館を活用し、希望者を募って土日等に開催する場合もある
講座内容	親子参加型ワークショップ：鉛筆の持ち方や数図カードを使った遊び方の紹介を通して、子どもとの関わり方のポイントを体験してもらう。 保護者参加型ワークショップ：子育ての悩みなどについてグループワークや、支援チームから子育てのアドバイスの講話を行う。

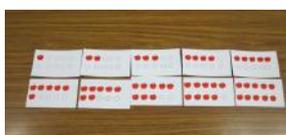
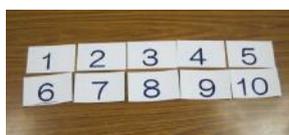
## 主な活動内容

### 親子参加型ワークショップ

鉛筆の持ち方や数図カードを使った遊びの紹介を通じて、保護者に子どもへの声かけ・関わり方のポイントを体験してもらいます。



支援チームが独自で作成した数図カード



### 保護者参加型ワークショップ

ドリンクを飲みながら和やかな雰囲気の中でグループワークを行います。  
また、支援チームから子育て・孫育ての経験を活かしたアドバイスのお話をします。



## 活動の成果と今後の展望

市内全域で講座を実施していきます。また、保護者の家庭環境により教育格差が拡大しないように、就学前の幼児期を対象とした講座開設の環境整備や、家庭教育支援の輪を広げる活動に取り組んでいきます。

### 子育て四訓



乳児期：肌を離さず



幼児期：手を離さず



児童期：目を離さず



青年期：心を離さず

## 知名町家庭教育支援チーム

# ゆいゆい

### 活動拠点と範囲

知名町

人口 5,883 人

(令和元年 12 月 1 日現在)



町全体で家庭教育を支えていくために家庭教育支援員が中心となり、行政関係課や関係機関が連携して家庭教育を支援するためのチームです。

「理想的な家庭教育」を押し付けず、共に伴走する“メンター”のような存在として、子どもとの関わりの中で生じる心配事や相談等を聞き、その結果、保護者に余裕が生まれ、その余裕が子どもたちの笑顔につながることを願って、活動しています。

### 主な活動形態

- 🌱 保護者への学びの場の提供
- 🌱 地域の居場所づくり
- 🌱 親子参加型行事の提供

### チーム構成

- 🌱 家庭教育支援員 2人
- 🌱 行政関係 8人
- 🌱 社会福祉協議会 2人

(平成 29 年 9 月発足)

### 活動対象

- 🌱 乳幼児から高校生の子どもを持つ保護者

### 活動の目的・趣旨

平成 26 年 4 月 1 日施行の鹿児島県家庭教育支援条例の主旨を踏まえ、家庭教育の自主性を踏まえつつ、全ての保護者が自分の子育てに自信を持ち、楽しみながら安心して子育てをすることができるよう家庭教育支援員を中心に、家庭・学校・地域・企業等の様々な機関・団体が連携して、地域ぐるみで家庭教育を支援していく気運の醸成を図る。

親としての学び、親になるための学びなど、家庭教育を支援するための学習機会の提供や親子参加型行事の実施、相談体制を整え、家庭教育に関する情報の提供を行う。

# ゆいゆいの活動

## 今後の展望

みんなて同じ方向を向いて、それぞれの強みを活かし、より協力し合える体制を！

## 成果

徹底的に寄り添うことで保護者が不安や悩みを気軽に打ち明けることができるようになった。

## 成果

SNSを活用することで相互発信できるような場をつくった。

## 今後の展望

本当に必要な人に届く周知・広報を進めていきたい。

## 学習の機会の提供

保育所×ゆいゆい  
「講演とマジック」  
親子でマジックショーを楽しみながら子育てについて学ぶ機会を提供（託児あり）

## 座談会

「島留学生と考える島の教育の未来」

## 親子参加型行事

生涯学習課 × ゆいゆい

わくわくたいむ  
「廃材を使って親子で工作！」

## 子育てサロン

地域 × 島外人材  
× 学校 × 社協 × ゆいゆい

## e.lab〈放課後のまなび場〉

- ・居場所を兼ねた学びの場
- ・地域の児童生徒が対象
- ・地域とともに子ども達に関わり保護者の困り感に寄り添う

## 相談体制

SNSを利用した支援員と保護者をつなぐシステムを構築し運用

## 周知・発信

広報誌「ゆいゆい」の発行

## 連携・協働

町立図書館 × ゆいゆい

学校 × ゆいゆい

ブックスタートに定期的参加  
PTA 行事でのキッズスペース運営

人権講話・家庭教育学級での講師  
小学校入学説明会での講話  
学習支援室「よ～いよいえらぶ」（不登校支援）

保育協議会での講師

保育所 × 家庭教育支援

yuiyui tree



# 「みんないく」 地域づくり推進委員会

家庭教育を支援する過程において、「眠る」ことに注目し、子どもの健全育成に資する取組として、地域ぐるみで睡眠教育を推進する活動を続けています。

メンバーには幼保こども園・小中学校・高等学校・保健センター・地域住民・養護教諭・生徒指導・PTA があり、それぞれの専門性を活かすことを大切にしています。

活動拠点を置く市町村 堺市：827,997人（令和元年12月1日現在推計人口）

活動範囲 堺市南区、三原台中学校区

活動開始年月 平成28年5月

構成員 約50人

（幼稚園・小中学校教員20人、行政・保育所・PTA10人、地域住民15人）

活動形態

保護者への学びの場の提供 地域の居場所づくり 訪問型家庭教育支援  
その他（ ）

活動対象

乳幼児 小学生（低学年） 小学生（中学年） 小学生（高学年）  
中学生 高校生以上 の子供を持つ保護者に対する活動を実施

活動の目的・趣旨

本会は、「一人の子どもの「L I F E」を守るために、子どもの睡眠と生活リズムを整え、「命」を健康に、「生」を輝かせる」を合言葉に、「みんないく（睡眠教育）」を通じて、心身ともに健康で幸福な地域社会づくりに貢献することを目的としています。また、活動を持続可能なものとしていくため、活動目的を明確にし、地域の方の意見を取り入れながら様々な地域団体と連携し活動の幅を広げ、メンバーが主体的に関われるようにしています。

## 主な活動内容

### 同委員会の会議

- ・家庭で取り組む睡眠教育に対して保護者へどういった支援ができるのか意見を出し合い企画を検討する。
- ・子どもの睡眠に関する実態を調べながら各取組に必要な資料を作成し、活用していただけるよう提供する。
- ・各取組をみんなで共有する場や日々新しい知識の補充をする場を設ける。

### 児童生徒の実態調査

- ・睡眠朝食調査やみんなく面談、睡眠に関するアンケートの実施。

### 授業での取組

- ・小中学校の9年間において系統的な授業を実践。
- ・幼保連携認定こども園では、みんなく絵本「ねこすけくん なんじにねたん？」を読み聞かせ。

### 地域での取組

- ・啓発ポスター作成並びに掲示
- ・啓発DVDの作成
- ・地域で核となり「みんなく」を発信できる「みんなくリーダー」を養成する研修会を実施し、受講した者へは修了証書を発行する。
- ・防犯パトロール「青パト」による早寝の呼びかけ。
- ・みんなくTシャツを作成し、教員や保護者で着用。

### 講演会・フォーラムの開催

- ・専門医等を招いて、地域で学ぶ講演会やフォーラムを開催。

### 全国に向けて

- ・地域外や他市からの依頼も受けて講師を務める。
- ・専門医監修のもと、絵本「ねこすけくん なんじにねたん？」を作成した。台湾、香港などアジアでも出版される。



## 活動の成果と今後の展望

### より多くの方に知っていただくために

- ・地域住民を中心に活動の様子や成果を記事にして、学校HPなどを活用し発信している。
- ・「みんなく」リーダーの活躍の場を設け、実践を積んでいただきながら次の担い手育成へつなげていく。
- ・福祉や子育てとの連携を深め、乳幼児期の睡眠について啓発する。

### 実践者の拡大に向けて

- ・効果検証を続け、結果の広報により、「みんなく」の価値を多くの方に理解していただく。
- ・興味をもった方が各々実践できるように、様々な取組事例を紹介していく。

# 文部科学省における家庭教育支援の推進に関する情報

子供たちの未来をはぐくむ

## 家庭教育

家庭教育支援について、各地域の取組を含めた様々な情報を文部科学省のポータルサイトに掲載しています。

子供たちの未来をはぐくむ 家庭教育

家庭はすべての教育の出発点

子供たちにとって「家庭」は安らぎのある楽しい居場所。社会へ巣立っていくために欠かせない場所。親の笑顔が子供の笑顔をつくり、親子が共に学び、育ち合う「家庭教育」を地域全体で応援する、そんな「やさしい社会」が、子供たちの「未来(あした)」をはぐくんでいきます。

→ 家庭教育ってなんだろう？

- ライブラリ → 詳しく見る
- 「お父さん」「お母さん」を楽しもう！学ぼう！ → 詳しく見る
- 地域で家庭教育を応援しよう！ → 詳しく見る
- 企業も家庭教育を応援しよう！ → 詳しく見る
- 新しいつながり合いのかたち → 詳しく見る
- 児童虐待から子供たちを守るために → 詳しく見る

インターネットで「家庭教育ってなんだろう？」と検索

### 家庭教育支援に関する各種動画等の提供



家庭教育支援チームの活動例 など (「YouTube」文部科学省動画チャンネル)

- メンバーの得意分野を生かした多様な取り組み
- 地域における支援のネットワークづくり
- 全戸訪問による相談支援 など

### つくりよう 家庭教育支援チーム ～地域の力で家庭や子供を支える～

身近な地域において保護者への支援を行う「家庭教育支援チーム」の組織化や活動を支援することを目的としたリーフレット。



### 「家庭教育支援チーム」の手引書

地域で「家庭教育支援チーム」を立ち上げる際に必要な視点等を、事例、コラム等を交えて整理した手引書(平成30年11月)。



### 訪問型家庭教育支援の関係者のための手引き

地方公共団体で訪問型家庭教育支援を実施する際に、役立つと思われる情報や知見、ノウハウ、より良い取組とするための提案を取組のヒントとして整理しました。



### 家庭教育支援手帳

保護者等に対して子育てのヒント集として、「乳幼児編」、「小学生(低学年から中学年編)」、「小学生(高学年編)」を作成し、ホームページに掲載。



## 地域の活動で子供たちや保護者に関わるみなさまへ 児童虐待への対応のポイント ～見守り・気づき・つなぐために～

家庭教育支援や地域学校協働活動等の関係者に向けて

地域の活動で子供たちや保護者に関わるみなさまへ

### 児童虐待への対応のポイント

～見守り・気づき・つなぐために～



子供たちや保護者と関わる中で「あれ?」「もしかして?」と思ったら、ためらわずに相談・通告してください。

189 あなたの「本のお電話で探れる子どももいます。児童虐待かとも思ったらすぐにお電話ください。お住まいの地域の児童相談所につながります。※一部の子供からはお電話できません。相談料はかかりません。



児童虐待防止のため取組として、「児童虐待への対応のポイント～見守り・気づき・つなぐために～」を作成し、文部科学省のホームページに掲載しました。

この資料では、地域において児童虐待の早期対応ができるよう、地域における家庭教育支援関係者や放課後子供教室などの地域学校協働活動関係者等に対して、児童虐待への対応に関して留意すべき事項をまとめています。



### 多くの子供たちや保護者と関わる 活動だからできることがあります

#### 児童虐待防止の流れ

児童虐待を防止するためには、以下のフローの中で、様々な関係者が適切に関与することが必要となります。



家庭教育支援や地域学校協働活動などの活動に関わるみなさまは、発生予防・早期発見・保護対応の場面で役割が期待されます。

#### 日々の活動での気づきが早期発見に

地域における家庭教育支援や地域学校協働活動などの活動は、日常的に多くの関係者が関与すると期待されています。日々の活動を通じて、児童虐待の気づきや早期発見につながります。



#### 活動を通じたつながりや声かけが未然防止に

児童虐待は、地域からの孤立やサポートの不足、育児ストレスなどの様々な要因が複合的に絡み合っています。地域での活動を通じて、関係者が安心してつながりや声かけが、児童虐待の未然防止につながります。



#### 地域社会全体で子供たちを育む体制づくり

虐待防止としてまず重要なのは、子育て・家庭教育に関することや悩みごとを相談できる体制づくりです。みなさまの活動を通じて、保護者が安心して子育てできるとともに、すべての子供たちが安心して地域全体で育ち、成長できる体制づくりが実現していくことが必要です。



#### 関係機関との連携がいざというときにも機能

学校や子育て世代総合支援センターなどの関係機関や、スクールソーシャルワーカーなどの専門家と連携することは、家庭教育支援や地域学校協働活動そのものを充実させるために必要ですが、いざというときの相談・通告を円滑に実施するにも有効的です。



※本資料においては、「事例・取組の活用ガイド」(事例の活用)に準じて、事例名を省略して記載しています。地域に依り、取組が異なる場合があります。ご自身の地域に合わせた事例の活用については、各関係機関のホームページをご覧ください。

## 「家庭教育支援チーム」の登録制度

### 登録制度の趣旨

文部科学省では、地域における家庭教育支援の推進を図るため、各地域で効果的な取組を行う家庭教育支援チームを登録し、更なる取組の充実を図るとともに、効果的な取組事例として発信し、広く全国の取組の活性化を図るための登録制度を実施。（平成22年度～）

### 登録のメリット

文部科学省ホームページにおいてチームの活動を掲載し、全国に向けて発信  
文部科学省から家庭教育支援に関する情報や資料の提供  
家庭教育支援チームのロゴマークの使用 など

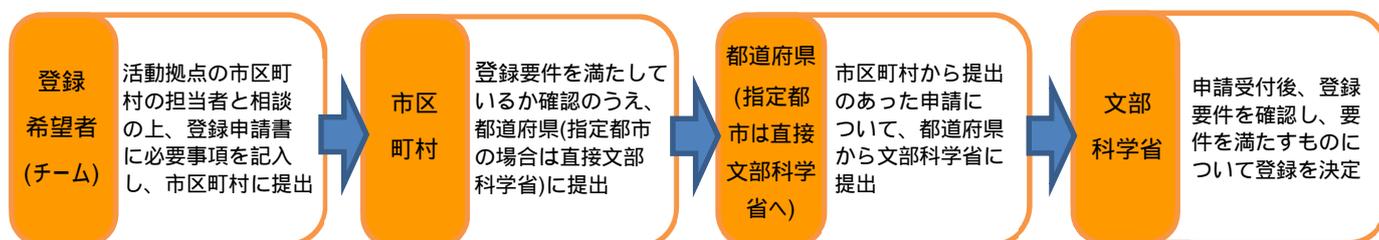
### 登録要件

地域の人材を中心に組織し、保護者への家庭教育支援の取組を行う家庭教育支援チームであり、次の要件を満たすことが必要です。

- (1) 具体的な取組内容として、以下のア～エのいずれか又はこれらを組み合わせた取組を行うものであること。
  - ア 保護者への学びの場の提供  
保護者等に対する主体的な「学び」と「育ち」に関する学習機会の提供や情報提供、相談対応
  - イ 地域の居場所づくり  
地域資源を活用した親子参加型の体験型プログラムの実施・情報提供や、日常的な交流の場の提供
  - ウ 訪問型家庭教育支援  
家庭訪問等による個別の情報提供や相談対応
  - エ その他、取組の目的・内容等から、家庭教育支援に資する取組として文部科学省が認めるもの
- (2) 継続的な取組を行うものであること。
- (3) 営利を主たる目的とした活動を行うものでないこと。
- (4) 特定の宗教的色彩の強い活動を行うものでないこと。
- (5) その他、家庭教育支援チームとして登録すべきでない特段の事情がないこと。

### 登録の手続き等

登録を希望するチームは、登録要件を満たしていることを確認し、活動を行う市区町村の家庭教育支援担当に相談のうえ、申し込み。登録期間は、登録日から翌々年度の3月31日まで。（更新可能）



**【家庭教育支援チームのロゴマーク】**  
コンセプト「温かく包む支援の輪」  
地域の人々の支援の輪が、子供や保護者の方を温かく包み込むイメージを体現したロゴマークです。



文部科学省ホームページ  
「家庭教育支援チーム」  
登録制度について





文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION,  
CULTURE, SPORTS,  
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN